

# CONTAX RTS II QUARTZ



J

取扱い説明書

このたびはコンタックスRTS II クオーツを  
お買い上げいたたきありがとうございます。

RTS II クオーツは、ポルシェ・デザイン・グループの  
完成されたフォルムを継承しながらも  
ボディメカニズムの自動化をさらに追求するとともに  
信頼性と高精度化を実現した最高級AE一眼レフカメラです。

高精度のクオーツパルスを採用した  
デジタル制御AE機構をはじめ、デジタル表示の情報ファインダー、  
TTLストロボダイレクト測光、AEロック、メカニカルシャッターなど  
数々の新機構を装備しました。

ご使用になる前に、この取扱い説明書を良くお読みいただき、  
正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、  
末永くご愛用くださるようお願いします。

この取扱い説明書の説明内容、及び説明写真はプラナー T \* 50mm F  
1.4 付きで行なっていますが、他の交換レンズを装着した場合も使用方  
法は同じです。

# 目 次

各部の名称	4
オート撮影の手順	8

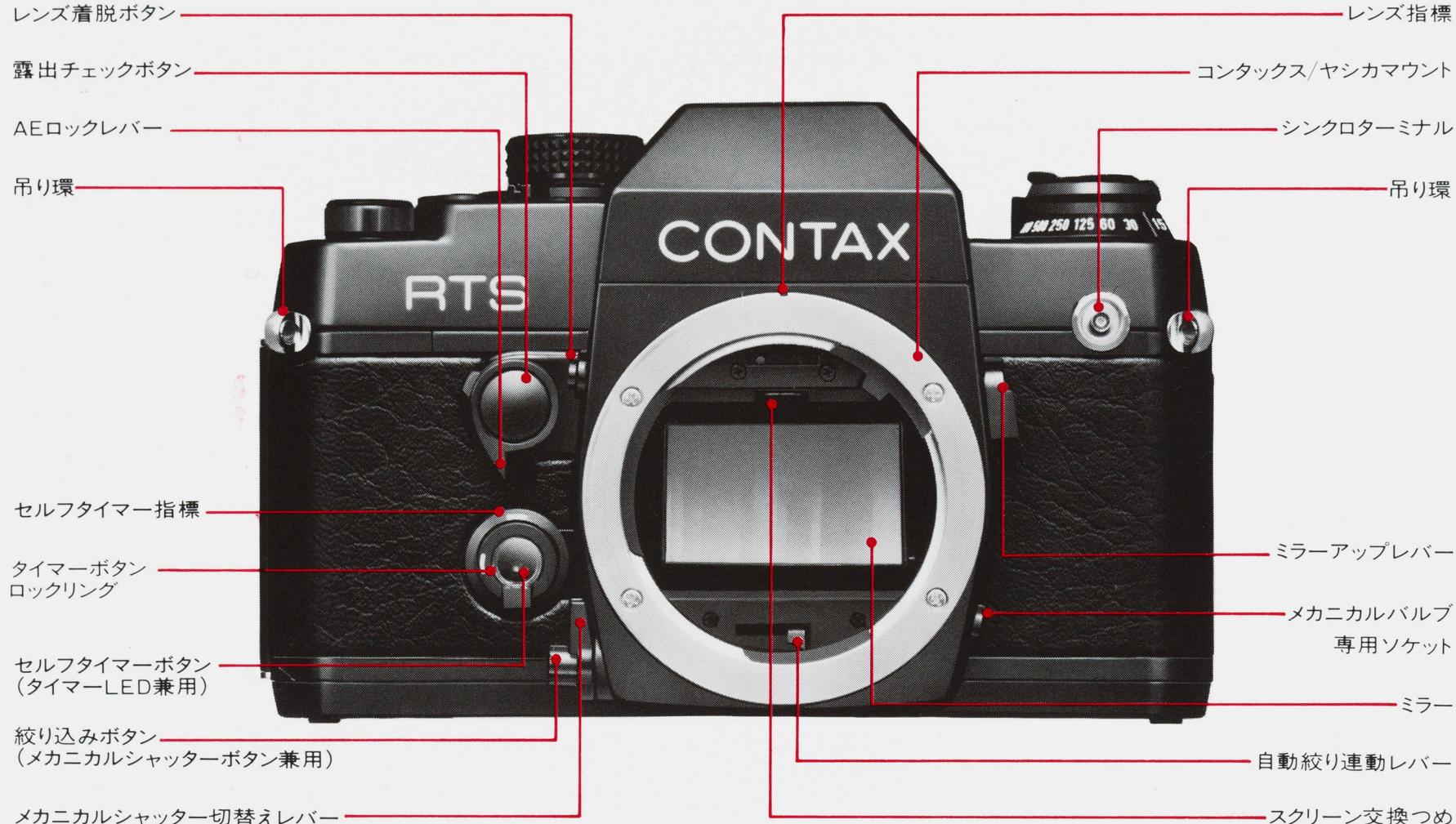
## 撮影の前に

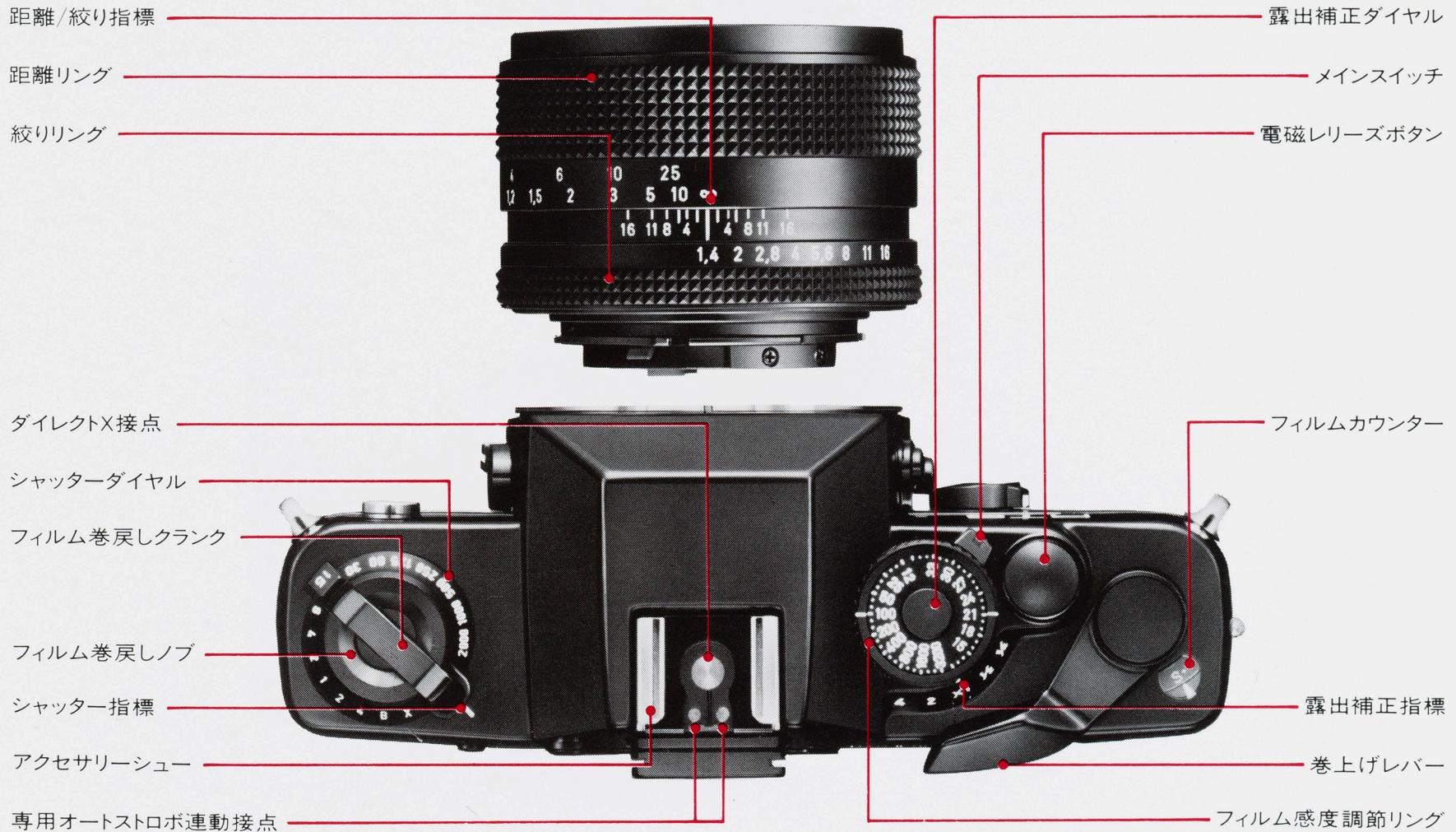
レンズの着脱	11
レンズの取付け・レンズの取りはずし	11
電池の入れかた	12
メインスイッチについて	13
電池のチェック	14
電池取扱い上の注意	15
フィルムの入れかた	16
フィルムカウンター・メモポケット	19
シャッターについて	20
シャッターダイヤルの表示	20
シャッターダイヤルのセット・メカニカルシャッターについて	21
絞りリングについて	22
ピントの合わせかた	23
ファインダー内表示について	24
カメラの構えかた	26
フィルムの巻戻し	27
測光機構について	28
測光範囲	28

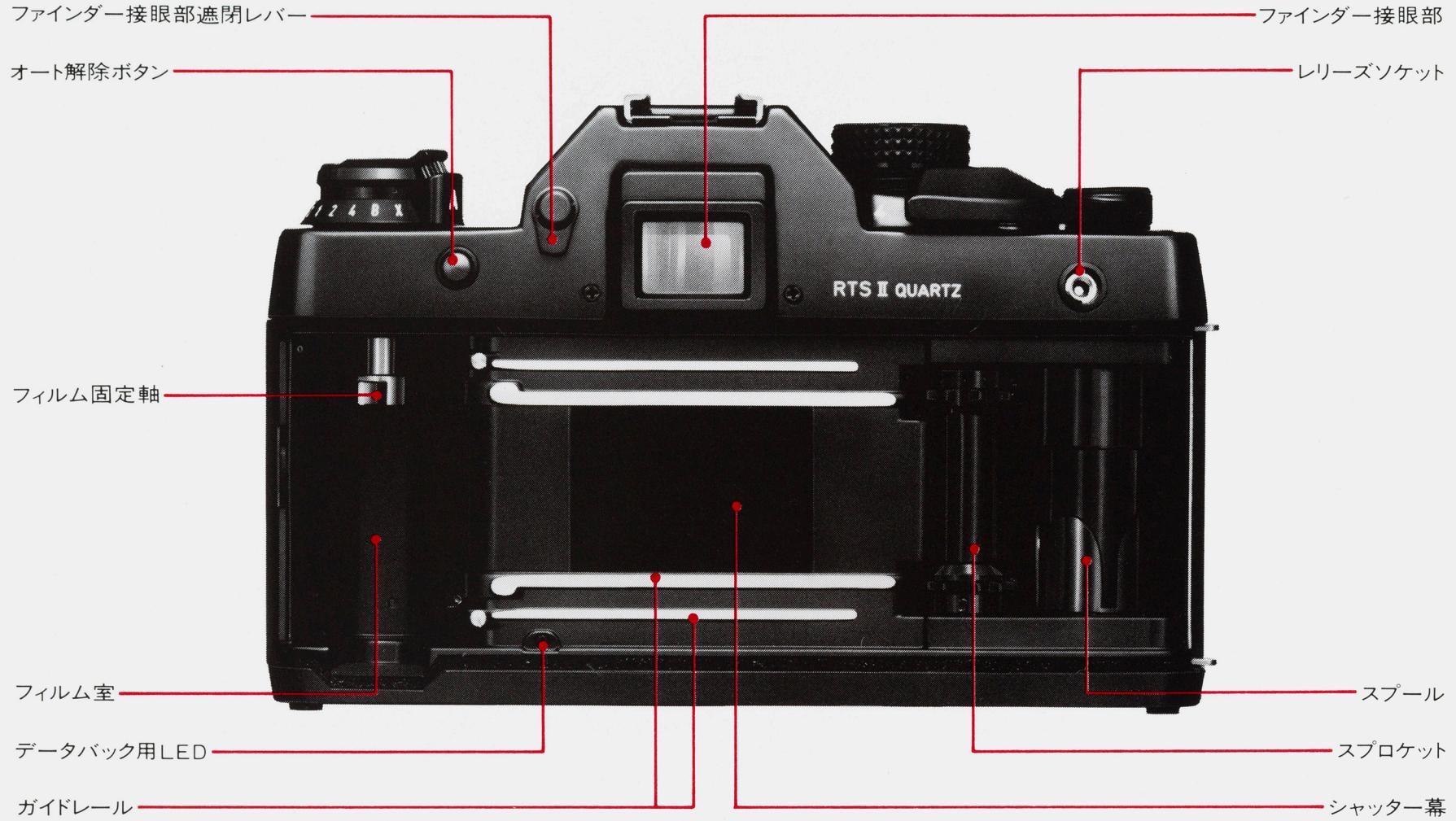
## 撮影操作の基本と応用

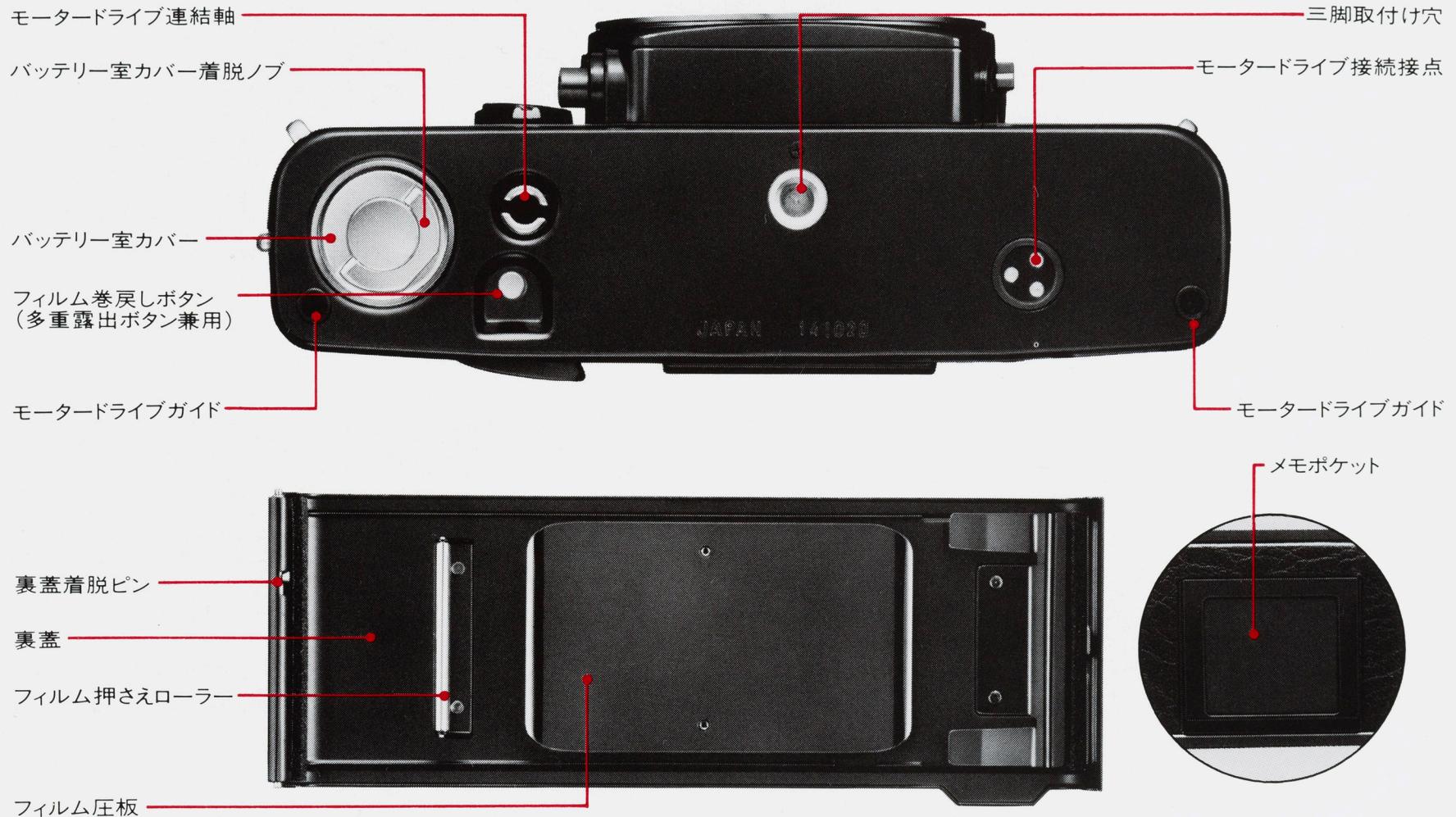
オート撮影	31
ファインダー接眼部遮閉レバーについて	33
露出のチェック	34
露出の補正	36
AEロックレバーの利用	36
露出補正ダイヤルの利用	38
マニュアル撮影	40
メカニカルバルブ専用ソケット	41
ストロボ撮影	42
TLAフラッシュシステムによる撮影	42
他のストロボによる撮影	43
セルフタイマー撮影	44
多重露光撮影	45
被写界深度について	46
絞り込みボタン	46
レリーズソケット/ミラーアップレバー	48
赤外線補正マーク/裏蓋交換	49
フォーカシングスクリーンの交換	50
取りはずし・取付け	50
フォーカシングスクリーンの種類	51
カメラ使用上の注意	52
主な仕様	53
保証書について・アフターサービスのご案内	54

# 各部の名称

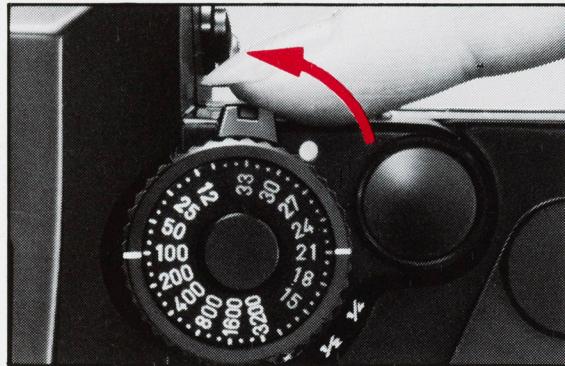




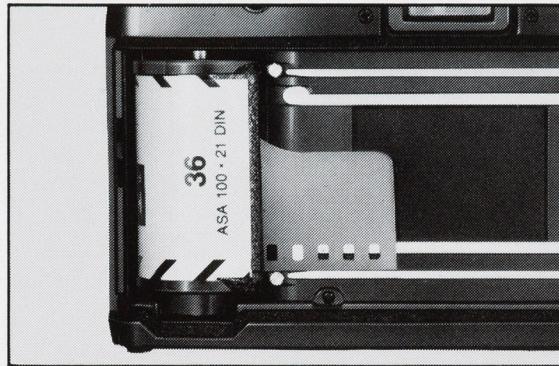




# オート撮影の手順



1 メインスイッチをONにします。



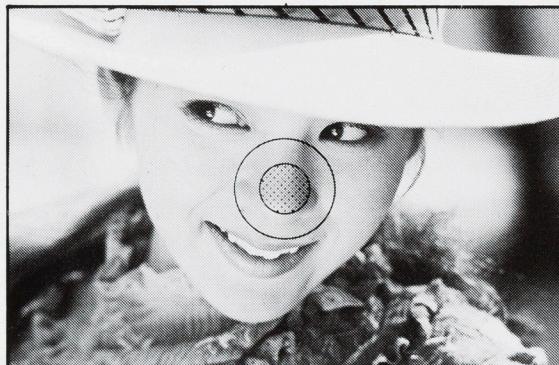
2 裏蓋をあけてフィルムを入れます。(P16参照)



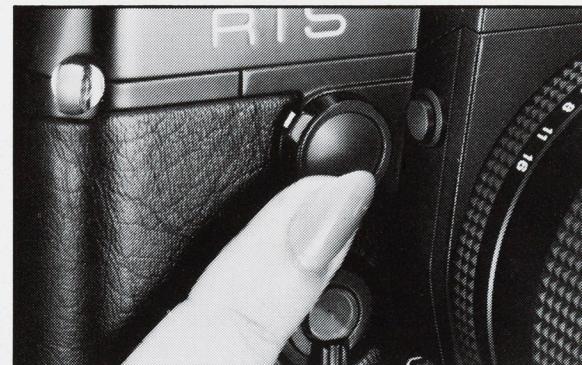
3 フィルムのASA/ISO感度をセットします(P18参照)



7 絞りをセットします。  
(P22参照)



8 ピントを合わせて構図を決めます。(P23参照)



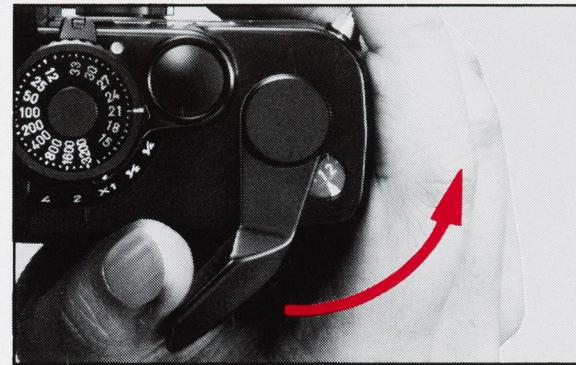
9 露出をチェックします。  
(P34参照)



4 シャッターダイヤルを“AUTO”にセットします。



5 露出補正ダイヤルを“X1”にセットします。



6 フィルムを巻上げます。



10 レリーズボタンを押して撮影します。



11 撮影が終ったら、フィルムを巻戻して取出します。(P27参照)

撮影の前に

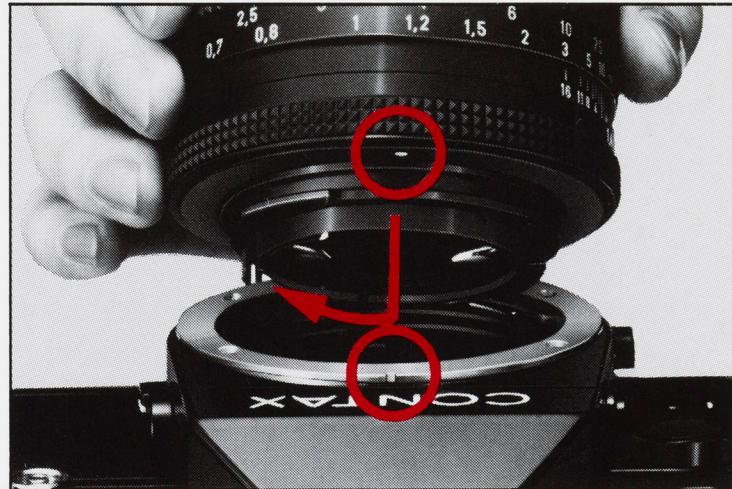


# レンズの着脱

## 〈レンズの取付け〉

まずカメラのボディキャップとレンズの後キャップをそれぞれ回してはずします。次にレンズ側の赤点をカメラ側のレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向に“カチッ”と音がして止まるまで回して取付けます。正しく取付けられたときは、レンズの距離/絞り指標がカメラの指標と同位置になります。

レンズキャップの着脱は、両側のつまみを押し込んで行ないます。



## 〈レンズの取りはずし〉

レンズ着脱ボタンを押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引出してはずします。カメラからはずしたレンズにはレンズキャップと後キャップ、またカメラにはボディキャップをかぶせて保護することを忘れないでください。

- レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部に触れないでください。
- フィルムが入っている状態でレンズを着脱するときは、直射光を避けてください。



# 電池の入れかた

RTSIIクオーツは、電池を電源として電子シャッターや露出機構などが作動するようになっていますから、必ず電池を入れて使用してください。

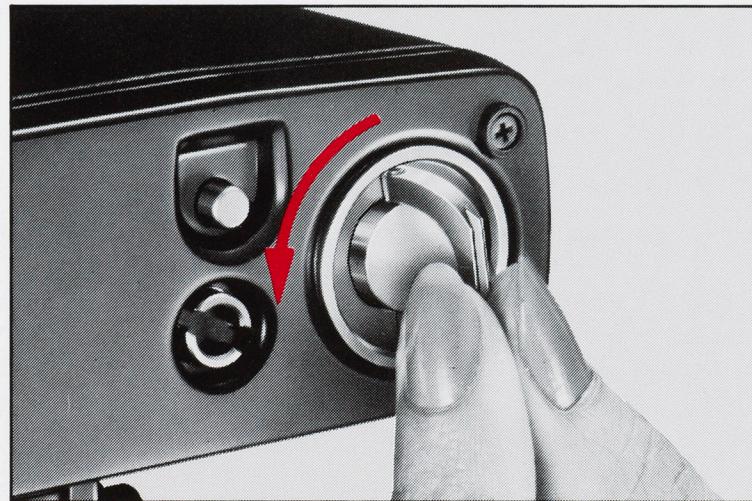
電池は、6.2V銀電池JIS 4SR44(4G13型)、または6Vアルカリマンガン電池JIS 4LR44を1個使用します。海外では次のいずれかの電池をお求めください。

エバレディNo.544、ユカールNo.544、マロリーPX28

**1** カメラ底部のバッテリー室カバー着脱ノブを起し、矢印方向へ回してバッテリー室カバーをはずします。

**2** 電池を電池室内の極性表示に従って正しく入れます。**+**と**-**を間違えるとカメラは作動しません。

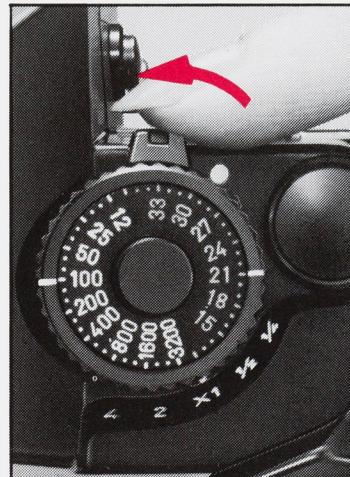
入れ終りましたらバッテリー室カバーを元通りにしっかりとねじ込んでください。



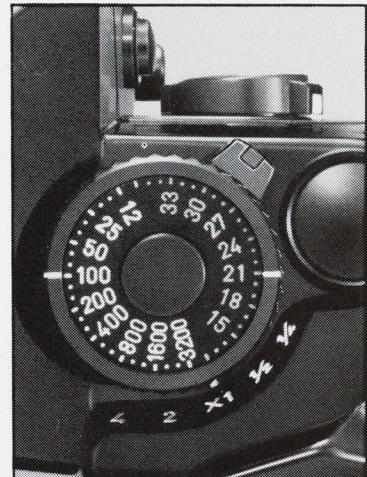
## 〈メインスイッチについて〉

RTS II クォーツには、カメラの電源をON-OFFするためのメインスイッチを設けてあります。メインスイッチを矢印方向に止まるところまで回すと(ON 状態を示す赤丸が見えます)、電子シャッターや測光回路、ファインダー内LED表示などが機能する状態になります。この状態で露出チェックボタンを押すと、ファインダー内にLEDによる露出が16秒間表示されます。メインスイッチを元に戻すと(赤丸が見えなくなる位置)電源が切れますので、カメラは作動しません。またLED表示も同時に消えます。

撮影をしないとき、またはカメラを使わないとときは、不用意にシャッターボタンや露出チェックボタンが押されることを防ぐため、メインスイッチをOFF(赤丸が見えない位置)にしてください。



ON状態



OFF状態

## 〈電池のチェック〉

メインスイッチをONにし、露出チェックボタンを押してファインダー内のLED表示で確認します。LED表示は、点灯、または点滅で表示されますが、使用電池が正常なときは下図に示すように、点灯表示はそのまま持続し、点滅表示は等間隔のリズムを繰返します。RTS II クオーツは、カメラが充分作動する状態で事前に電池の消耗を知らせる便利な機構になっていますが、このときは正常な点灯・点滅の表示が下図右側のような点滅に変わります。LED表示がこの状態になったら新しい電池の用意、または交換を行なってください。

LED表示	電池が正常なとき	電池の消耗を警告するとき
点灯表示		
点滅表示		

電圧が規定以下になると、露出チェックボタンを押してもLED表示はなくカメラも作動しません。この場合は新しい電池と交換してください。

- 電池が消耗したときでも、メカニカルシャッター(1/50秒)を利用して撮影することができます。(P21参照)



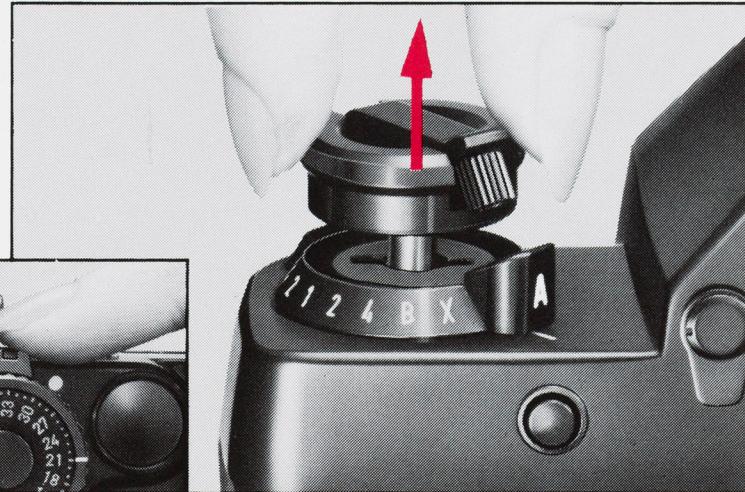
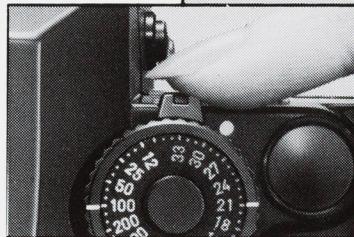
## 〈電池取扱い上の注意〉

- 電池の寿命は銀電池で約1年、アルカリマンガン電池で約6ヶ月位使うことができますが、撮影頻度や購入時の電池の能力、周囲の気温などによって変化します。
- 電池は、一般に低温(約0°C以下)になると性能が一時的に低下します。そのまま使用すると撮影に支障をきたす場合もありますので、寒冷地での撮影ではカメラ本体を低温から守るようにするか、別売りのパワーパックP-3の利用をおすすめします。なお低温のために性能の低下した電池は、常温に戻れば回復しますからそのまま使用できます。
- 電池の両極を汗や油などで汚したりすると接触不良の原因となりますので、乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 長期間カメラを使用しないときは、カメラから電池を取出してください。
- 長期間の旅行などでは、予備の電池を準備しましょう。
- 使用済の電池を火の中に捨てたり、分解するのは危険ですからやめてください。

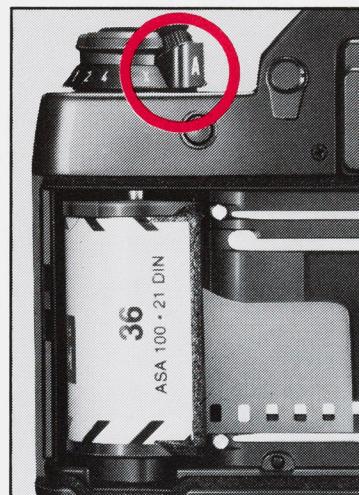
# フィルムの入れかた

フィルムは、一般的のパトローネ入り35ミリフィルムを使います。フィルムの出し入れは、直射光を避けて行ってください。

- 1 メインスイッチを回してカメラをONにします。次にフィルム巻戻しノブを強く持上げて裏蓋を開けます。

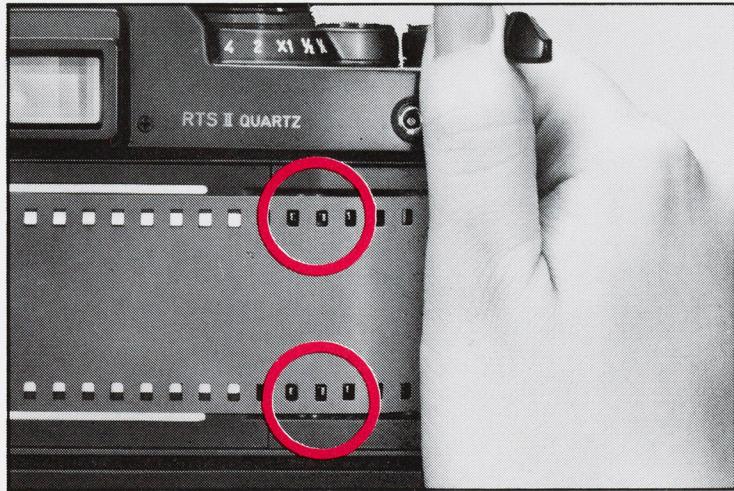


- 2 フィルム室にフィルムを入れ、巻戻しノブを元の位置に押し下げます。ノブは左右に少し回しながら押し込むと楽に下がります。また巻戻しクランクのつまみはシャッターダイヤルの“A”表示の凹部の中に収納してください。



- 3 フィルムをパトローネから少し引出して先端をスプールのクリップに差し込みます。どのクリップに差し込んでもかまいません。

**4** 卷上げレバーをゆっくり回して、フィルムの上下のパーフォレーション(送り穴)がスプロケットの歯車にかみ合うようにフィルムを1コマ分送ります。次にきちんとかみ合ったことを確認してから裏蓋をとじます。  
●卷上げレバーは、止まる位置まで確実に回すことによりフィルムが1コマ分巻上げられ、同時にシャッターがセットされます。巻上げが十分でないときリリーズボタンを押してもシャッターは切れません。巻上げ操作は、レバーを予備角位置に引出しておくとスムーズに行なえます。



**5** フィルム巻戻しクランクを起こし、巻戻しノブを矢印方向に止まるところまで静かに回してフィルムのたるみをなくしておきます。



**6** フィルムカウンターが“1”を示すまで、フィルム巻上げとレリーズボタンを押す操作(空写し)を繰り返します。撮影はカウンターに“1”が出てから始めてください。巻上げ時に巻戻しノブ内のフィルム給送表示(白線)が回ればフィルムは正しく送られています。カウンターが“1”を示すまでの空写しでは、シャッターダイヤルがどの位置にセットされていても(Bは除く)、自動的に1/60秒でシャッターが切れる機構になっています。カウンター“1”からはセットしたシャッター速度で作動します。

**7** フィルムを入れ終ったら、必ずそのフィルムの感度(ASA/ISO)をセットします。フィルム感度調節リングを引上げながら回して、指標(白線)を使用フィルムの感度数値(白数字)に合わせます。フィルム感度はフィルムの外箱に表示されています。オレンジ色の数値は、ドイツ工業規格(DIN)のフィルム感度表示です。

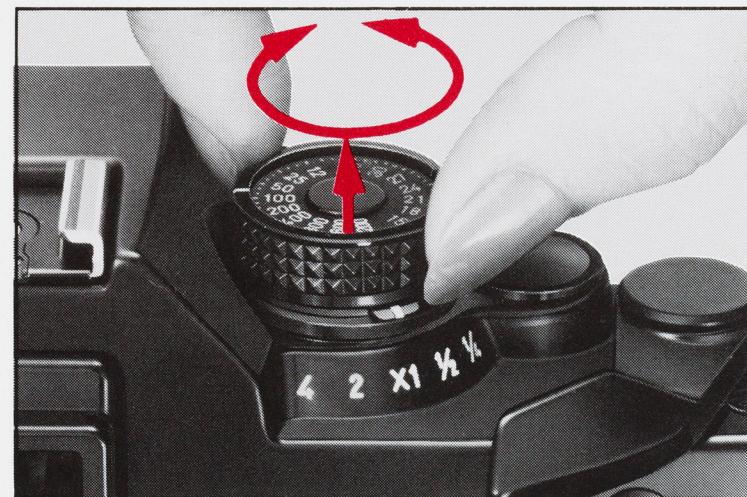
フィルム感度は、正しい露出を得るために大切な数値ですから、クリックの位置に正しくセットしてください。

#### フィルム感度数値の表示

ASA/ISO	
12      25      50      100      200      400      800      1600      3200 16 20    32 40    64 80    125 160    250 320    500 640    1000 1250    2000 2500	

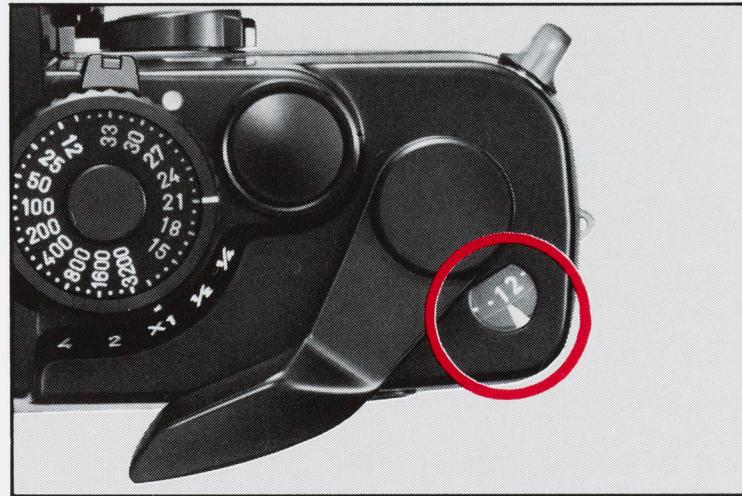
  

DIN	
15      18      21      24      27      30      33 12 13 14    16 17    19 20    22 23    25 26    28 29    31 32    34 35 36	



## <フィルムカウンター>

フィルムカウンターは、フィルムの有無に関係なく巻上げレバーを巻上げるごとに1目盛ずつ進み、裏蓋をあけると自動的に“S”に戻ります。目盛表示は“S”からはじまり、・・・、1、2、4、6……36、・まで偶数値で表示され、奇数値はその中間に・印で示されます。このうち“12”、“20”、“24”、“36”は使用フィルムの撮影枚数を表わすためオレンジ色になっています。



## <メモポケット>

カメラに入れたフィルムの種類を忘れないように、使用フィルムの外箱の蓋の部分を切取って差し込むか、または撮影データのメモ入れなどにご利用ください。



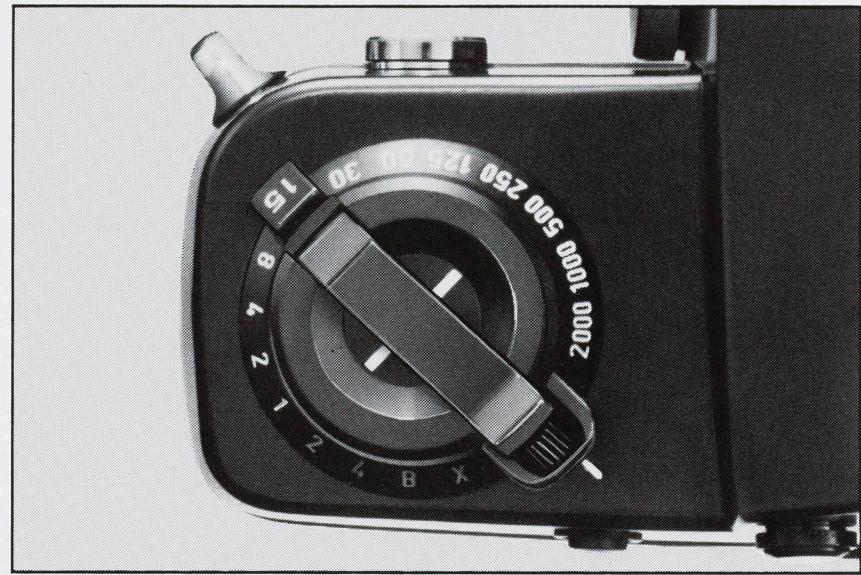
# シャッターについて

シャッターは、撮影フィルムの露光時間を調節するもので、RTSIIクオーツはオート、マニュアル撮影時とも時間的精度のきわめて高いクオーツ振動子を利用した電子回路によつてシャッター速度を制御しています。

## 〈シャッターダイヤルの表示〉

“A”（オート）……………“A”セット時は、設定したレンズの絞りと被写体の明るさ、及び使用フィルム感度に応じて16秒から1/2000秒の範囲で自動的に適正シャッター速度をコントロールするオート撮影が行なえます。またTLAフラッシュシステムを装着したときは、全絞りに連動するTTLオートストロボ撮影ができます。

“2000～4”……………マニュアル撮影のときに使用する目盛で白数字の“2000”は1/2000秒を“125”は1/125秒……………“2”は1/2秒、“1”は1秒を、またオレンジ色の“2”、“4”は2秒と4秒を表わし、いずれもその数値でシャッターが切れることを示します。ダイヤルの数値を大きい方へ1段（たとえば125→250）回すごとに露光量が1/2ずつ少なくなり、逆に小さい方へ1段回すごとに2倍ずつ多くなります。



“B”（バルブ）……………レリーズボタンを押している間シャッターが開いて、フィルムに露光が行なわれます。

“X”（ストロボ同調速度）……………ストロボ撮影時にセットします。RTSIIクオーツのシンクロ接点はX接点で、シャッター速度は1/60秒です。ただし、TLAフラッシュシステムを使用するときは、“A”的まで“X”にセットする必要はありません。

## 〈シャッターダイヤルのセット〉

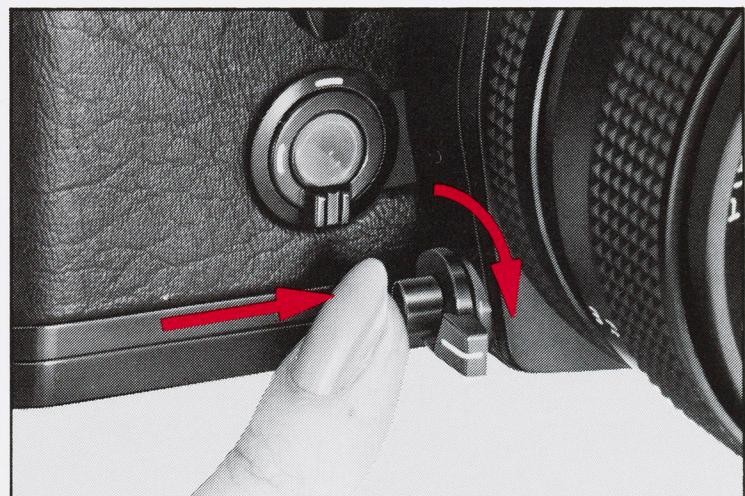
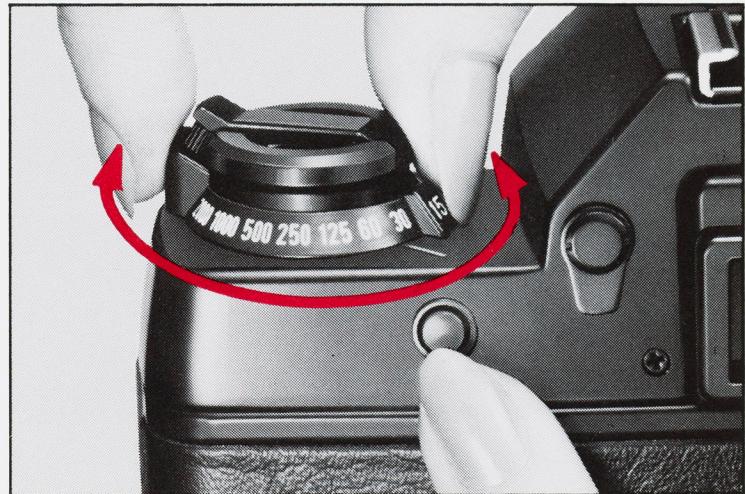
シャッターダイヤルを左右に回してダイヤルの数値、または記号（各クリック付）をシャッター指標に合わせます。“A”、または“X”的位置では不小心にダイヤルが動かないようロックされます。ロックを解除するときは、オート解除ボタンを押しながらダイヤルを回してください。回すとき、“A”表示とその反対側の“15”に設けた指当てを利用すると操作が行ないやすくなります。

●ダイヤルは各目盛の中間にセットして使用することはできません。

## 〈メカニカルシャッターについて〉

電池が消耗するとカメラは作動しなくなります。このときは新しい電池と交換しなければなりませんが、撮影中に電池が消耗してしまい、予備の電池もないがどうしても撮影したい場合は、メカニカルシャッターを利用してシャッターを作動させることができます。カメラ前面のメカニカルシャッターアルミレバーを前方に止まるまで回し、絞り込みボタン（メカニカルシャッターボタン兼用）を押すと、シャッターダイヤルのセット位置に関係なく1/50秒でシャッターが作動します。露出の決定は、使用フィルムの解説書を参考にするか、または各自の判断で決めて撮影してください。

メカニカルシャッターでの撮影では、ワインダーやモータードライブを使用して自動巻上げをしないでください。またセルフタイマー撮影もできません。



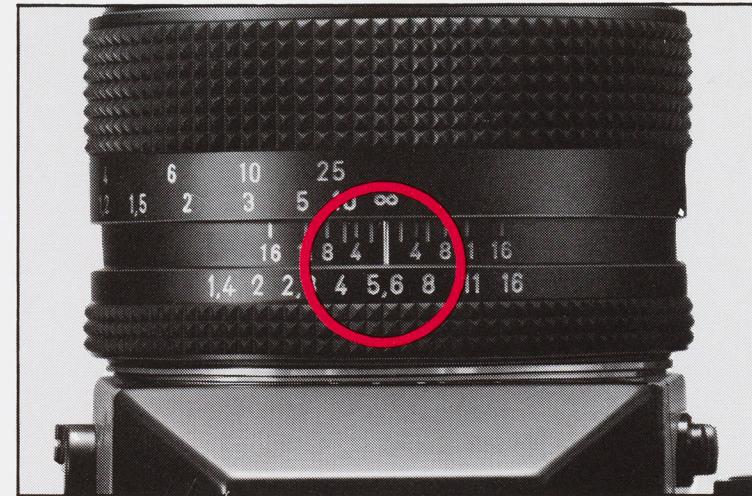
# 絞りリングについて

絞りリングは、フィルム面に達する光量を調節するもので、リングの数値を大きい方へ1段（たとえば4→5.6）回すごとに光量が1/2ずつ少くなり、また小さい方へ1段回すごとに2倍ずつ多くなります。また絞りは、単に光量を調節するだけでなく、使い方によりレンズの被写界深度（P46参照）を生かした撮影が行なえます。絞りのセットは、リングを回して希望する数値（各クリック付）を距離/絞り指標に合わせますが、数値の中間も使用できます。

ツアイスレンズ群はミロターを除いて、シャッターボタンを押してシャッターが開いている間だけセットした絞り値まで絞られる自動絞り機構ですから、ファインダー内は常に明るい開放状態になっています。

## 絞りの目安

撮影条件(ASA/ISO 100のとき)	絞り値
直射日光下の屋外撮影の場合	8・11・16
曇天、または日陰の場合	4・5.6
室内撮影、または夜の場合	1.4・1.7・2.8



# ピントの合わせかた

RTS II クオーツにはマイクロプリズム式のフォーカシングスクリーンが標準装備されています。ピント合わせは、ファインダー中央のマイクロプリズム部、及びその周辺のマット面で行ないます。

ファインダーをのぞきながら距離リングを回して、マイクロプリズム部か周辺のマット面の像がはっきり見えるようにします。ピントが合っていないときは、マイクロプリズム部ではギザギザに、マット面ではボケます。

●長焦点レンズなど比較的に暗いレンズを使用したときや、高倍率での接写時には中央のマイクロプリズム部にカゲが生じ、ピントが合わせにくくなることがあります。このようなときは周囲のマット面でピントを合わせてください。

---

遠視・近視の方は別売りの視度調整レンズをご利用ください。-5D、-4D、-3D、-2D、0D、+1D、+2D、+3Dの8種類があり、ご自分の視度に応じたレンズを選び、付属のアイカップに取付けて使用します。



ピントが合っている



ピントが合っていない

# ファインダー内表示について

露出情報は、LED表示方式で、露出チェックボタンを押すと表示され、16秒後に自動的に消えます。また表示の輝度は、明るいときは明るく、暗いときは暗く自動的に2段階に変化します。

## 絞り表示

レンズにセットした絞り値が赤いLEDデジタルで点灯表示されます。表示される数値は中間絞り値も含めて1.2からはじまり、1.4、1.7、2.0、2.4、2.8、3.5、4.0、4.5、5.6、6.5、8.0、9.5、11、13、16、19、22、27、32まであります。ただし開放F値がF5.6より小絞りのレンズ、またはオートベローズ、マイクロスコープアダプターなど自動絞りが連動しないアクセサリーを取付けた場合は、“1.4”的表示に固定されますが測光機能は正常に作動します。

## シャッター速度表示

オート、及びマニュアル撮影時のシャッター速度を赤いLEDアレーが点灯、または点滅で表示します。表示は上からOVER、2000、1000、500、250、125、60、30、15、8、4、2、1S、2S、4S、Bまであり、“2000”は1/2000秒………“125”は1/125秒………“2”は1/2秒を表わし、“1S”、“2S”、“4S”はそれぞれ1秒、2秒、4秒を示します。また“B”はバルブ、及びオート撮影時のロン

グタイム(16秒まで)と露出アンダーを、“OVER”は露出オーバーを意味します。

## 露出補正警告表示

露出補正ダイヤルを“X1”以外の数値に合わせると、補正の加減に応じて“+”、または“-”記号が赤いLEDデジタルで点灯し、露出が補正された状態であることを示します。これにより補正による撮影を終えたあと、ダイヤルを“X1”に戻し忘れる 것을防ぎます。

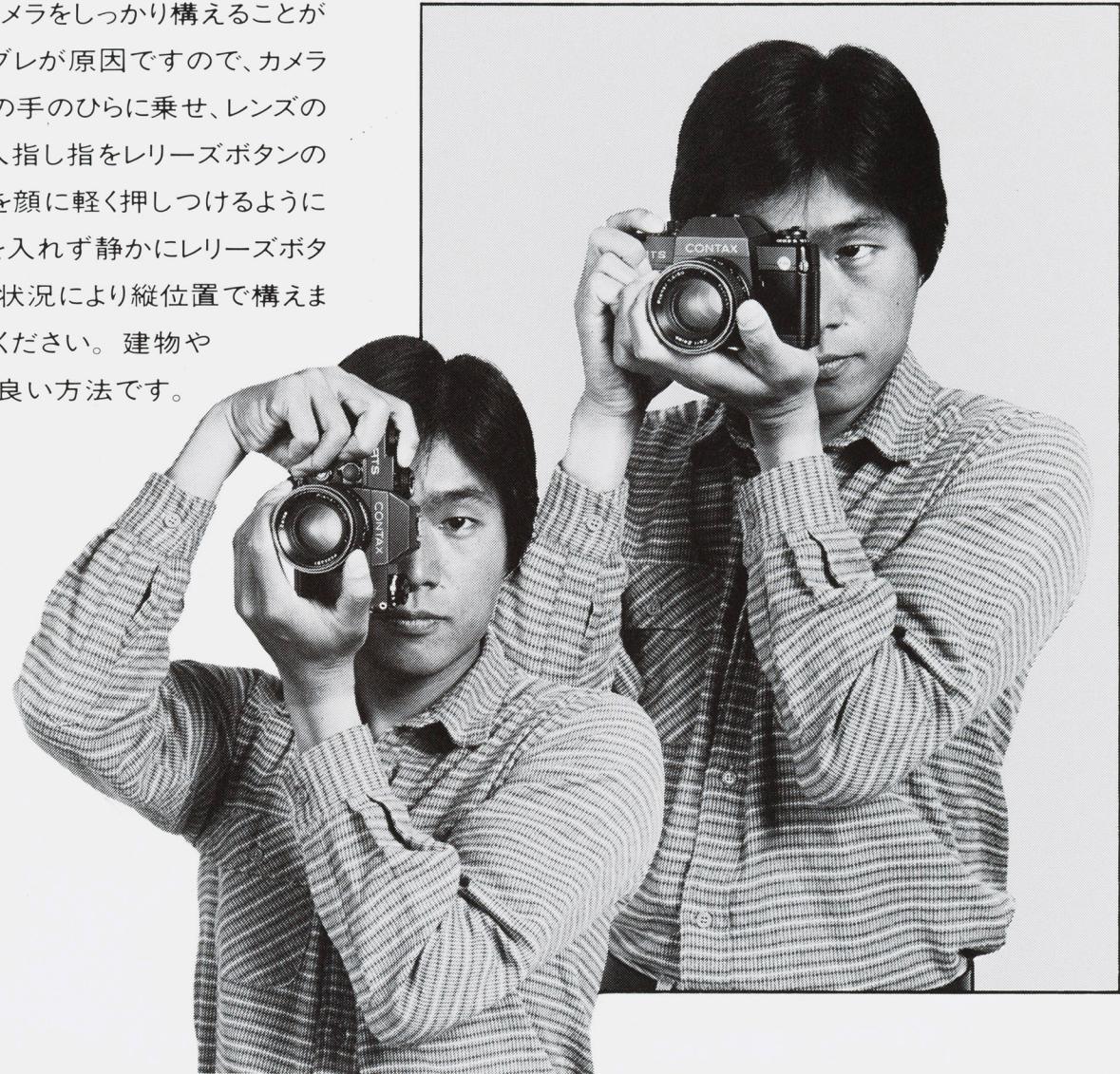
## TLAストロボ充電/調光確認マーク

TLAフラッシュシステム使用時は、充電が完了するとこのマークが緑色で点灯。また調光が適確に行なわれたときは撮影後に点滅をして知らせます。



## カメラの構えかた

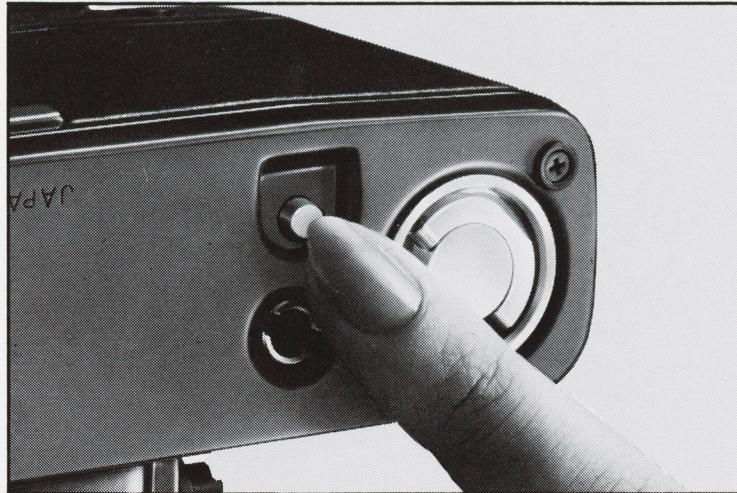
ピントが合った美しい写真を撮るためにには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラブレが原因ですので、カメラに慣れるまで練習をしてください。カメラを左の手のひらに乗せ、レンズの距離リングを指で回せるように持ち、右手の人指し指をレリーズボタンの上に軽くおきます。左ひじを体につけ、カメラを顔に軽く押しつけるようにしてファインダーをのぞき、右手にはあまり力を入れず静かにレリーズボタンを押してください。カメラは横位置のほか、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して体やカメラを支えることも良い方法です。



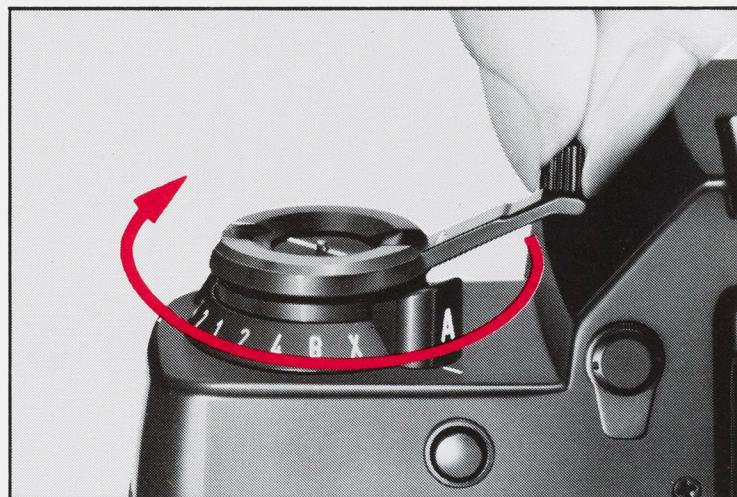
# フィルムの巻戻し

撮影フィルムを全部写し終るとフィルム巻上げができなくなります。それ以上は無理に巻上げず、フィルム カウンターでフィルムの終りを確認し、必ずカメラの中でパトローネに巻戻してから取出してください。取出したフィルムは、早目に現像に出しましょう。

**1** カメラ底部のフィルム巻戻しボタンを押し込みます。巻戻しボタンは押し続ける必要はありません。



**2** フィルム巻戻しクランクを起こして矢印方向に回します。クランクの回転とともにジーというスプールの回転音がするのでフィルムの正常な巻戻しが確認できます。フィルムがスプールからはずれるときは、軽い抵抗を感じますが、少し回してクランクが軽くなり、回転音がなくなったら裏蓋をあけてフィルムを取出します。



# 測光機構について

RTS II クオーツは、撮影レンズを通った光の明るさを測光する TTL 方式のカメラで、ファインダー画面中央部の被写体の明るさを重点的に、かつ周辺部の明るさも加味した“中央部重点開放測光”方式を採用しています。

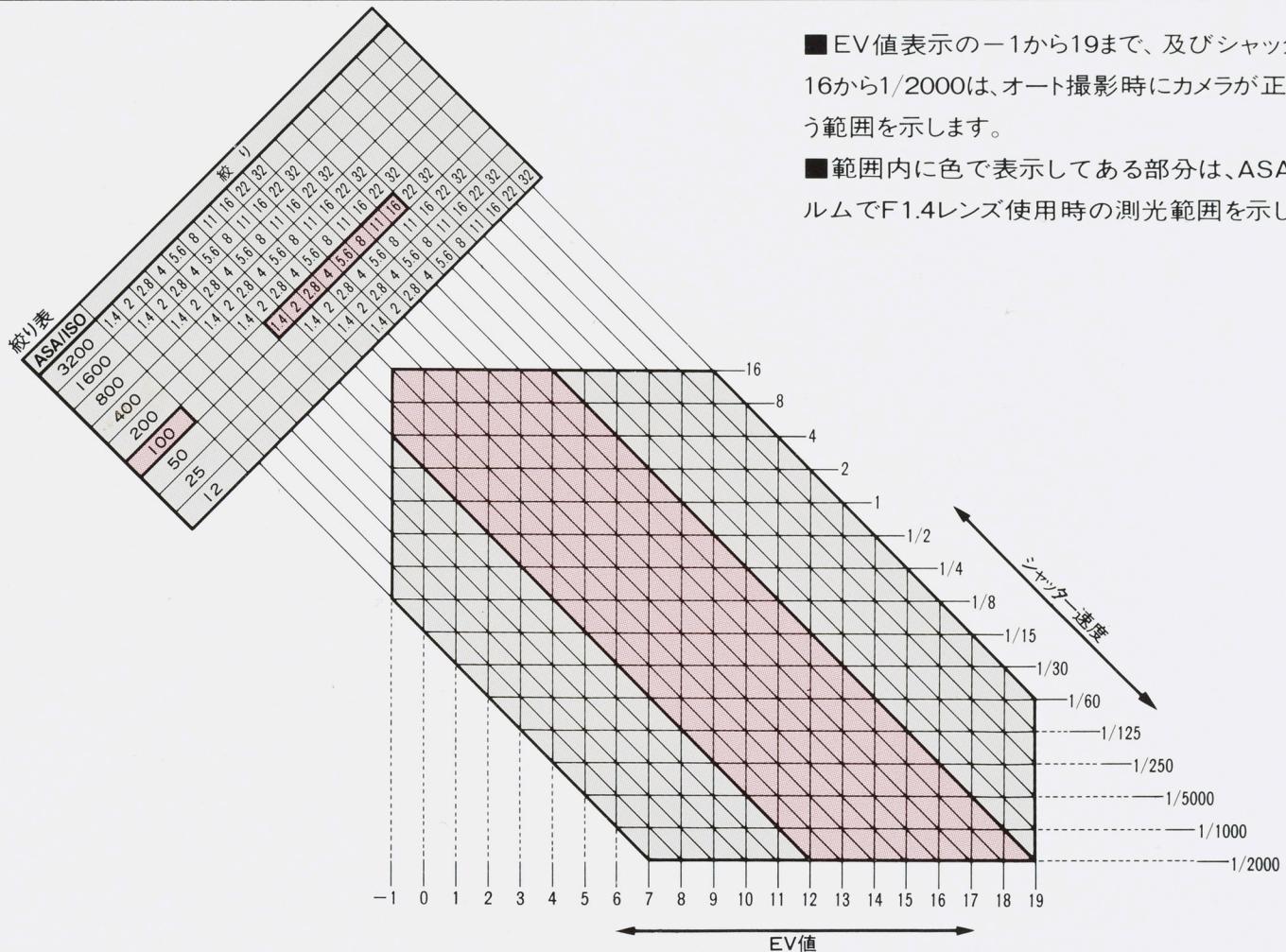
撮影方法は、あらかじめフィルム感度、及び絞りをセットすることにより、被写体の明るさに応じて自動的にシャッター速度を制御する絞り優先方式のオート撮影と、絞りとシャッター速度を任意に決めるマニュアル撮影ができます。撮影時の露出情報は、露出チェックボタンを押すとファインダー内に表示されます。また専用のTLA フラッシュシステムを使用するストロボ撮影では、フィルム面の反射光を測光する“TTL 中央部重点ダイレクト測光”に切替わり、カメラ側でストロボ発光量を制御するシステムになっています。

## 〈測光範囲〉

次ページの表は、絞り、シャッター速度、EV値の相互関係を示すもので、使用レンズの測光範囲をEV値で知ることができます。たとえばASA/ISO 100のフィルムでF 1.4レンズを使用した場合、絞り表のASA/ISO 100の項の“1.4”と“16”（プラナーT \* 50mmの最小絞り値はF 16です）から斜めに延長した線上で垂直線（EV 値）と水平線（シャッター速度値）が交わる点が示す両端の範囲、すなわちEV “-1”からEV “19”がF 1.4レンズ使用時の測光範囲です。

※EV値とは、撮影条件（フィルム感度、外光の明るさ）が一定のときに、フィルムに同一露光効果を与える絞りとシャッター速度の組合せを示すものです。

たとえば、次ページの表よりEV13は、F16・1/30秒でもF8・1/125秒でも同じ露光効果が得られることがわかります。



撮影操作の  
基本と応用



# オート撮影

オートでは、任意の絞りをセットするだけで被写体の明るさに応じた適正シャッター速度を1/2000秒から16秒の間で自動制御して適正露出を得ます。そのときのシャッター速度は、ファインダー内シャッター速度表示の点灯で確認できます。

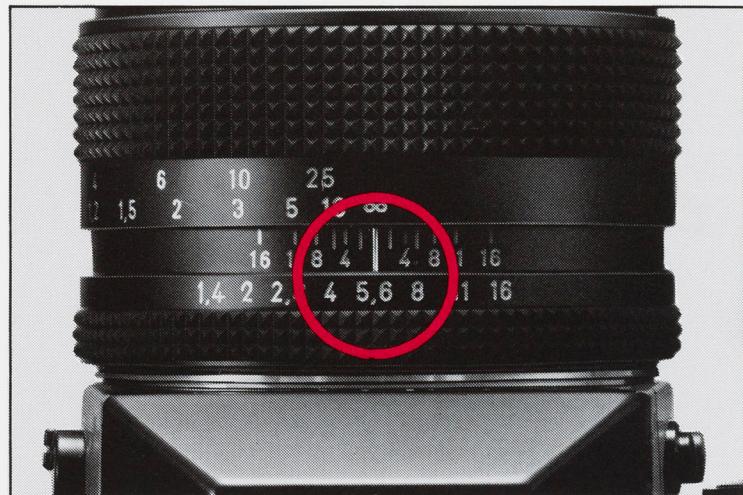
## 1 シャッターダイヤルの“A”をシャッター指標にセットします。

これで露出が自動的に決まります。“A”にセットしたときは、ダイヤルが不意に動かないようロックされます。

露出補正ダイヤルが“X1”にセットされているか同時に確認してください。通常のオート撮影で“X1”以外にセットされると適正露出が得られなくなります。

## 2 絞りを決めます。

レンズの絞りリングを回して希望する絞り値をセットします。絞りは数値の中間も使用できます。



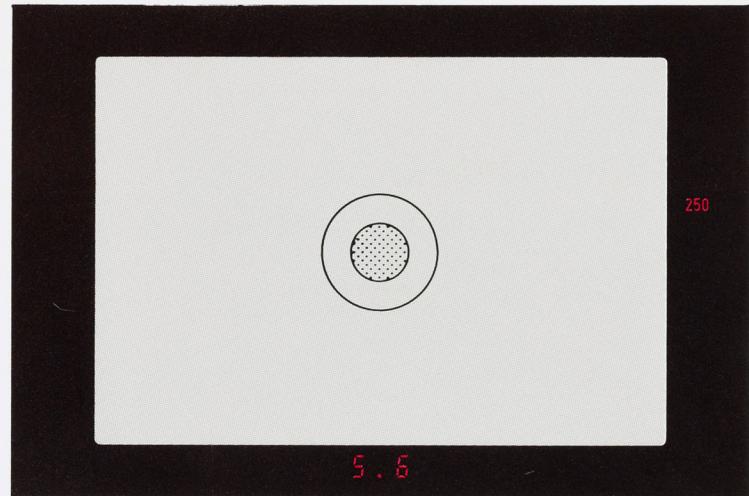
### 3 ピントを合わせ、構図を決めます。

カメラを被写体に向け、ファインダーをのぞきながらレンズの距離リングを回してピントを合わせるとともに、構図を決めます。



### 4 露出のチェックをします。

露出チェックボタンを押すと、ファインダー内の絞り、及びシャッター速度表示が点灯します。シャッター速度表示の“2000”から“B”的間にあるいずれかの数値が点灯するときは、そのシャッター速度で適正露出の撮影ができる事を示します。（詳しくは露出チェックの項、P34参照）



## 5 レリーズボタンを押して撮影します。

撮影後もレリーズボタンを押している間は、ファインダー内LED表示が点灯していますが、指を離すと消えます。

### 希望するシャッター速度で撮影したいときは

絞りを開ければシャッター速度は速く、逆に絞りを絞り込めばシャッター速度は遅くなるという相関関係を利用して、意図したシャッター速度が得られるように絞りを調節して撮影します。ファインダーをのぞきながら絞りリングを回して、希望するシャッター速度表示が点灯したところでレリーズボタンを押してください。

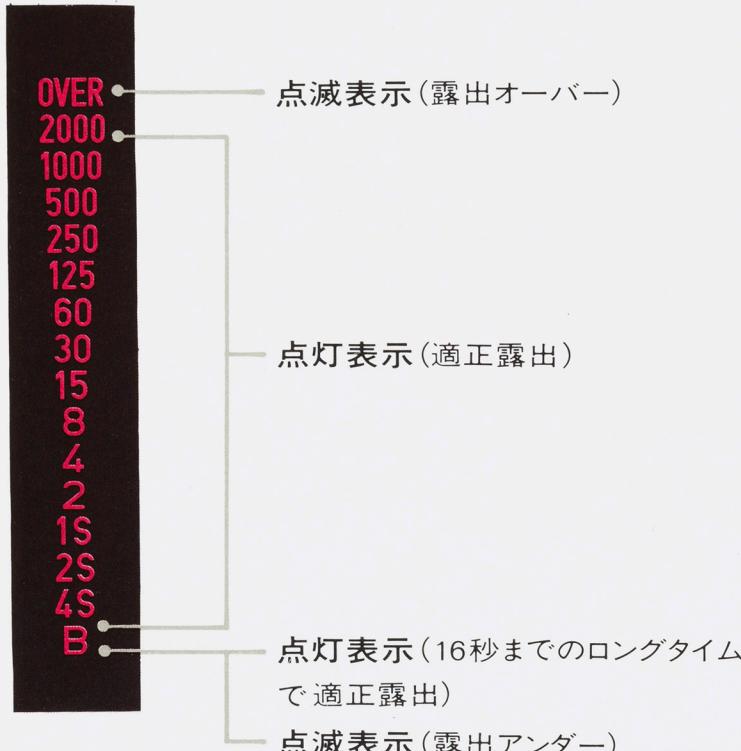
### ファインダー接眼部遮閉レバーについて

セルフタイマーやリモートコントロールシステムを利用してのオート撮影では、ファインダー接眼部から顔を離しますので、接眼部から入る光が測光に影響を及ぼす場合があります。このようなときはファインダー接眼部左のレバーを使って接眼部を遮閉してください。レバーを矢印方向へ回すと遮閉板で閉じられます。



## 〈露出のチェック〉

露出チェックボタンを押すと、ファインダー内シャッター速度表示が撮影時の適正シャッター速度を点灯で、露出オーバー、アンダー時は点滅で示します。ボタンから指を離したあとも16秒間は表示を続けますが、露光が完了すると消えます。



### ■“2000”から“B”的間で点灯しているとき

適正露出ですからそのまま撮影してください。レリーズボタンを押すと点灯しているシャッター速度値でシャッターが切れます。数値が2つ並んで同時に点灯したときは、その間の適正なシャッター速度でシャッターが切れます。“B”が点灯するときは16秒までのロングタイムで作動することを示します。シャッター速度が1/30秒より遅くなるときは、手持ち撮影ではカメラブレを起こす恐れがあります。このときは、1/30秒より速いシャッター速度になるように絞りを変えるか、または三脚などを使用し、カメラを固定してから撮影してください。



### ■“OVER”が点滅しているとき

露出オーバーです。被写体が明るすぎますので絞りリングを回して絞り込み、1/2000秒以下のシャッター速度にしてから撮影します。絞り込んでもなお“OVER”が点滅しているときは、別売りのNDフィルター（光量制限用）を使用して調整してください。



### ■“B”が点滅しているとき

露出アンダーです。被写体が暗すぎますので絞りリングを開放側に回し、“B”表示を点灯にするか、それより速いシャッター速度にしてから撮影してください。絞りを開放にしても“B”が点滅するときは、ストロボ撮影に切替えてください。

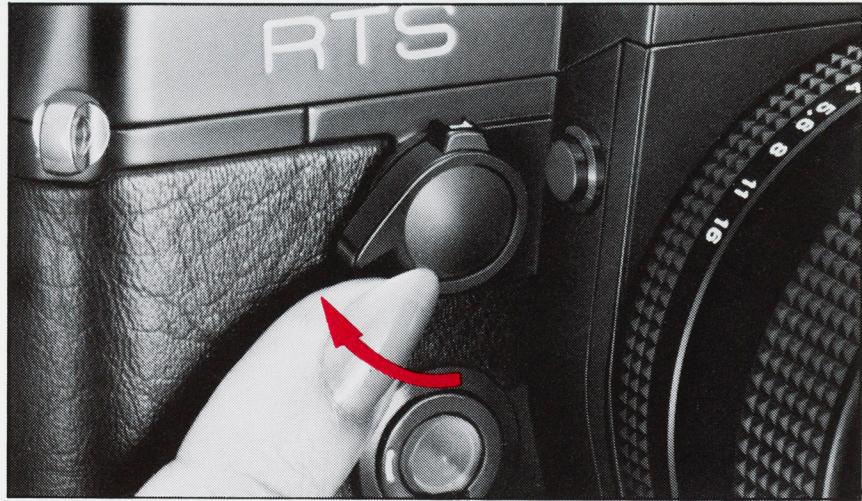
オート撮影で、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、露出を補正する必要があります。RTSIIクオーツは、補正方法としてAEロックレバー、または露出補正ダイヤルを利用する2通りの操作が選べます。

## 〈AEロックレバーの利用〉

撮影時の被写体の露出（絞りと適正シャッター速度の組合せ）を記憶する装置です。AEロックレバーを矢印方向へ止まるところまで回すとロックレバーが固定され、同時にセット時点の露出がカメラに記憶されて、そのままリリースボタンを押すと背景の変化に影響なく記憶された露出でシャッターが切れます。このときのファインダー内シャッター速度表示は点滅となります。

記憶を解除するときは、ロックレバーを指で元の位置まで押し戻してください。シャッター速度表示は点灯に戻ります。

RTS II クオーツのAEロック機構は、絞り（光量）とシャッター速度（露出時間）の組合せで得られるフィルムへの露光量を記憶する方式になっています。したがってAEロック後に絞りを変えた場合でも、それに応じてシャッター速度も自動的に変化するので全体の露光量は常に一定となります。



電池の無駄な消耗を防ぐため、撮影後は必ずAEロックレバーを元に戻してください。

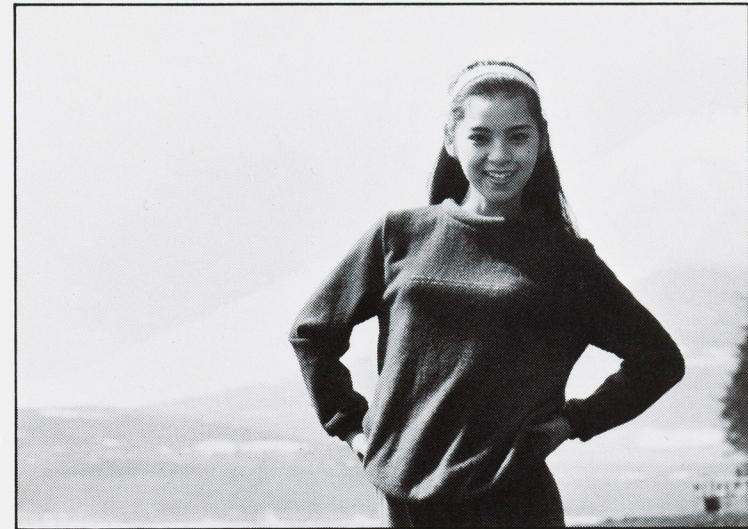
## AEロックを利用して

たとえば、次ページ写真①のように人物の背景がかなり明るい状態で、しかも人物を画面の端に構図して適正露出で撮影したい場合は、いったん人物を画面の中央に入れるか、あるいはカメラを人物に近づけてAEロックレバーをセットし、再びカメラを元の構図に戻してシャッターを切れば、人物を良好に写すことができます。（写真②）

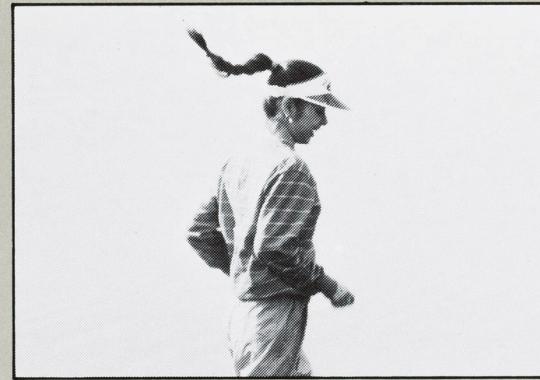
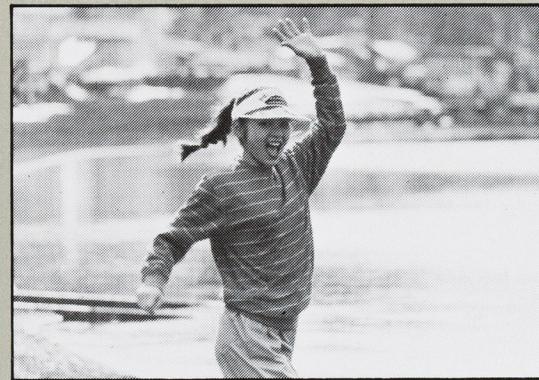
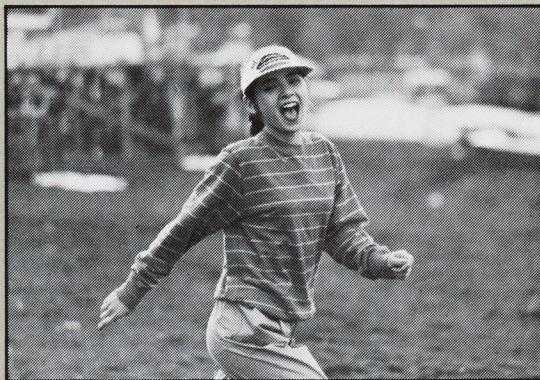
一度記憶された露出は、解除するまで正確に記憶し続けますから、ワインダーやモータードライブを使用して写真③のように動く被写体を追って連続撮影するときなども、あらかじめその被写体の露出を記憶させておけば、背景の変化による影響を受けずに調子のそろった連続写真が得られます。このように明るい背景や逆光時の人物、またはスポットライトを浴びている人物など、カンや経験を必要とする撮影が、AEロックを利用して簡単に、かつ正確に行なうことができます。



写真①



写真②



写真③

## 〈露出補正ダイヤルの利用〉

通常のオート撮影は、露出補正ダイヤルを“X1”にセットして使用しますが、露出を補正するときは、補正ダイヤルを回して露出補正指標を希望する目盛に合わせてください。目盛は、“4”、“2”、“1/2”、“1/4”的4段階(1/2ごとにクリックストップ付)あり、その中間も使用できます。目盛の“4”、“1/4”は絞り値、シャッター速度の2段に、“2”、“1/2”は1段に相当し、“4”、“2”的整数値は露出が多く与えられ、“1/2”、“1/4”的分数値は逆に少なくなります。たとえばシャッター速度が1/125秒のとき、ダイヤルを“2”に合わせると1/60秒に、“4”では1/30秒になります。

露出補正をした場合、ファインダー内絞り表示の右横に“2”、“4”方向にセットしたときは“+”表示が、“1/2”、“1/4”方向のときは“-”表示が出て補正中であることを示すとともに、補正量に応じてシャッター速度表示が変化します。

●AEロック後に露出補正ダイヤルを回した場合、ファインダー内に表示が出ますが、露出は補正されません。

露出を補正した撮影が終ったあとは、必ず補正ダイヤルを“X1”に戻してください。



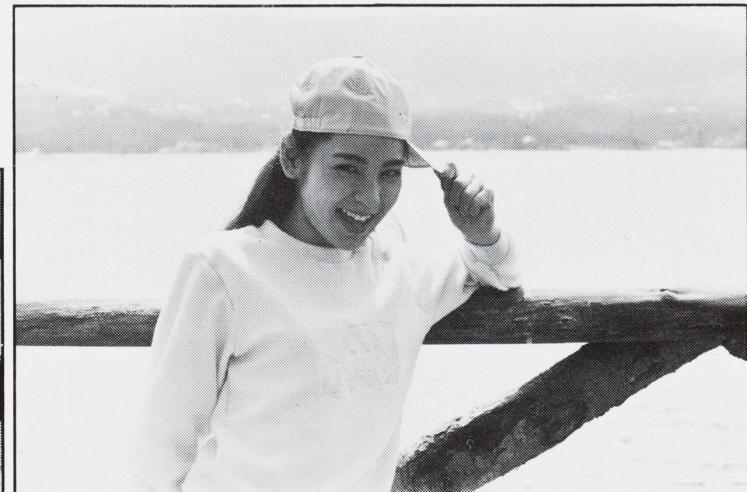
## 逆光撮影などのときは

逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように、明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出補正ダイヤルを“2”、または“4”に合わせて露出を多く与えます。



未補正

## “2”・“4”にします



## 舞台撮影などのときは

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出補正ダイヤルを“1/2”、または“1/4”に合わせて露出を少なくします。



未補正

## “1/2”・“1/4”にします

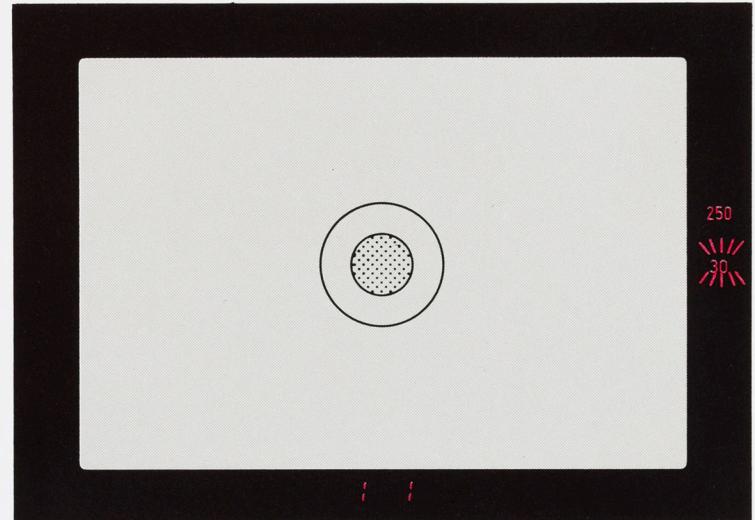


# マニュアル撮影

シャッター速度を自分で選択して撮影したいとき、あるいは“B”(バルブ)撮影やTLAフラッシュシステム以外のストロボで撮影するときには、シャッターダイヤルを“A”からはずし、手動で露出を決めます。マニュアル撮影では、設定したシャッター速度をファインダー内シャッター速度表示が点滅して知らせます。

**1** オート解除ボタンを押しながら、シャッターダイヤルを回して希望するシャッター速度を指標に合わせます。“A”、または“X”からはずしたあとは、解除ボタンを押さなくてもダイヤルは回せます。

**2** 露出チェックボタンを押すとファインダー内シャッター速度表示は、設定シャッター速度を点滅で示します。同時に点灯している表示は、オート撮影時と同様に、そのときセットされている絞りに対する適正なシャッター速度を示しています。この点灯表示を点滅表示と一致するように絞りリングを回します。

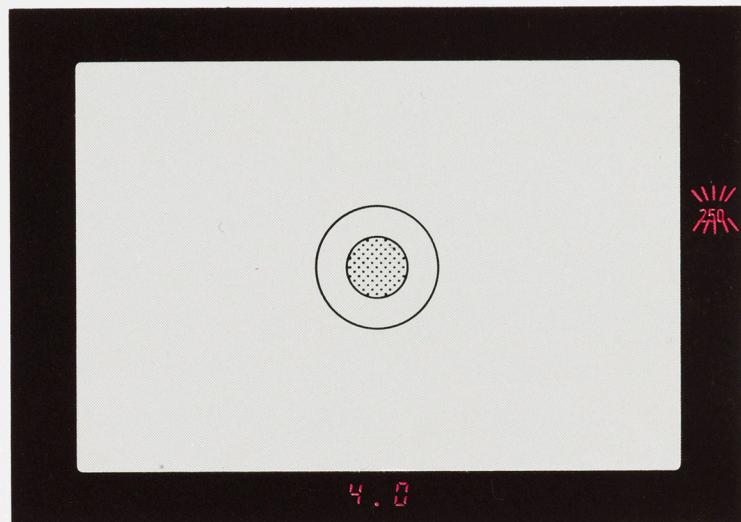


### 3 点灯表示が点滅表示と一致したときが適正露出で、そのときは点滅表示のみとなります。レリーズボタンを押して撮影してください。

- 紋りを先にセットしてからシャッター速度を調節する場合は、シャッターダイヤルを回し、点滅表示を点灯表示に一致させてから撮影します。ただし点灯表示が同時に2つ示されているときは、シャッターダイヤルの中間が使用できないため、完全に表示を一致させることはできません。この場合は紋りリングで微調整をして表示を一致させてください。
- “B”(バルブ)撮影のときは、レリーズボタンを押している間シャッターが開いています。カメラは、ブレを防ぐため必ず三脚を使用して固定するか、適当な台の上など安定した場所におき、別売りのケーブルスイッチSをカメラに接続して撮影してください。

#### 〈メカニカルバルブ専用ソケット〉

- 市販のケーブルレリーズを接続することによって、電池の有無、シャッターダイヤルの位置に関係なく機械的に任意の時間だけシャッターを開くことができます。電気的にシャッターを開くバルブ撮影に比べて、電池の消耗を心配する必要がないので、天体写真のように長時間の露光を要する撮影時に利用します。ファインダー内のLED表示はつきません。
- メカニカルバルブを利用するときは、確実にフィルムを巻上げてから撮影してください。
  - 別売りのケーブルスイッチSは接続できません。



# ストロボ撮影

## 〈TLAフラッシュシステムによる撮影〉

RTS II クオーツにTLAフラッシュシステムを組み合わせたオートストロボ撮影では、カメラに内蔵された専用SPDがレンズを通してフィルム面にあたるストロボ光を測光し、自動制御する「TTLダイレクト測光」システムに切替わります。カメラのシャッターダイヤルは“A”的まで、充電完了と同時に同調シャッター速度(1/60秒)にセットされ、使用レンズの全絞りに連動してオートストロボ撮影が行なえます。「TTLダイレクト測光」ですから一般的のストロボ撮影はもとより、高度なテクニックが要求されるバウンス、ディフューズ、近接撮影なども面倒な露出の計算をする必要がなく、簡単な操作でストロボ撮影が楽しめます。そのほか発光量をカメラの露出補正ダイヤルにより調整することもできます。

TLAフラッシュシステム使用のときは、撮影に必要な情報をファインダー内で表示するほか、充電完了前、あるいはストロボが“OFF”的ときは、ストロボを取付けたままで普通のオート撮影が行なえます。

TLAフラッシュシステムには、クリップオンタイプの「TLA20」、「TLA30」、グリップタイプの「RTF540」の3種類があり、これらを活用するための延長・増灯システムも用意してあります。

●「RTF540」でTTLダイレクト測光を行なうときは、別売りのTLAアダプターを併用します。(①表示のないRTF540ではダイレクト測光は行なえません。)



写真は「TLA30」を装着したRTS II クオーツ

## 〈他のストロボによる撮影〉

RTSII クオーツのシンクロ接点は X 接点 (1/60秒) です。他のストロボやフラッシュバルブを使用する場合は、下表を参考にシャッター速度をセットしてください。シャッターダイヤルを “X” にセットしたときは、ダイヤルがロックされます。またファインダー内シャッター速度表示は、ストロボ同調速度を示す “60” が点滅し、同時に点灯している表示は、オート撮影時同様にそのときセットされている絞りに対するシャッター速度を示しています。ストロボを取付けるアクセサリーシューは、ダイレクト X 接点式ですのでシンクロコードなしで使用することができますが、コードを必要とするストロボは、コードをカメラ前面のシンクロターミナルに接続します。露出 (適正絞り) は、ご使用になるストロボの説明書に従ってください。

ヤシカでは、TLA フラッシュシステムのほか、コンパクトで手軽な「CS-10」、「CS-14」(いずれもコードレスタイプ) ストロボを用意しています。

## ストロボ 同調範囲

シャッター速度	1/2000	1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15	1/8	1/4	1/2	1	2	4	X(1/60)	B
ストロボ	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フラッシュバルブ	FP	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○
M	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○
MF	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○



# セルフタイマー撮影

グループでの撮影や記念撮影で、自分も一緒に入りたいときはセルフタイマーを使用します。セルフタイマーボタンを押すと兼用のタイマーLEDが点滅して作動状態を示します。

**1** あらかじめピントを合わせ、フィルムを巻上げておきます。次にボディ前面のタイマーボタンロックリングのつまみを矢印方向に回して、リングの白指標をセルフタイマー指標に合わせます。

**2** セルフタイマーボタンを押すと兼用のタイマーLEDが点滅を開始して、10秒後に自動的にシャッターが切れ、撮影されます。LEDはシャッターが切れる2秒前に点滅が早くなり、撮影されることを予告します。タイマーボタンは、停止も兼ねていますので、セルフタイマー作動を途中で停止するときはボタンを再度押してください。

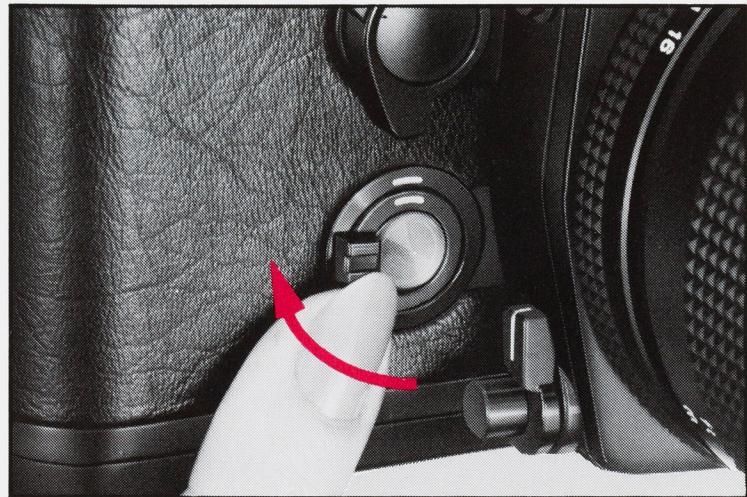
セルフタイマー撮影が終ったら、ロックリングを元の位置に戻してください。

- オート撮影でセルフタイマーを使用し、カメラから離れるときは、ファインダー接眼部横のレバーで接眼部を遮閉してください。またAEロック機構を利用することもできます。

- セルフタイマー作動中にロックリングを戻しても作動は停止しません。

- セルフタイマー作動中でもレリーズボタンを押して撮影することができます。この場合、タイマーの作動は停止し、タイマーLEDも消えます。

- セルフタイマー作動中は、ファインダー内表示は消えます。



# 多重露光撮影

同じ画面に違う種類の被写体、あるいは同じ被写体を重ねて写し込むことにより、独特的な写真表現ができます。

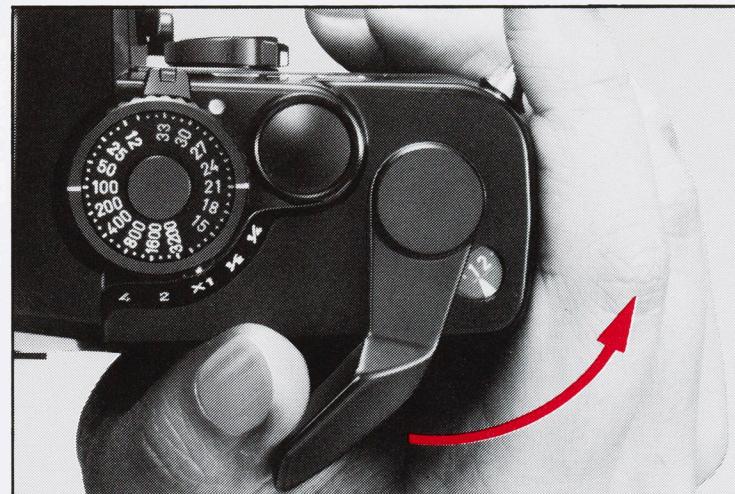
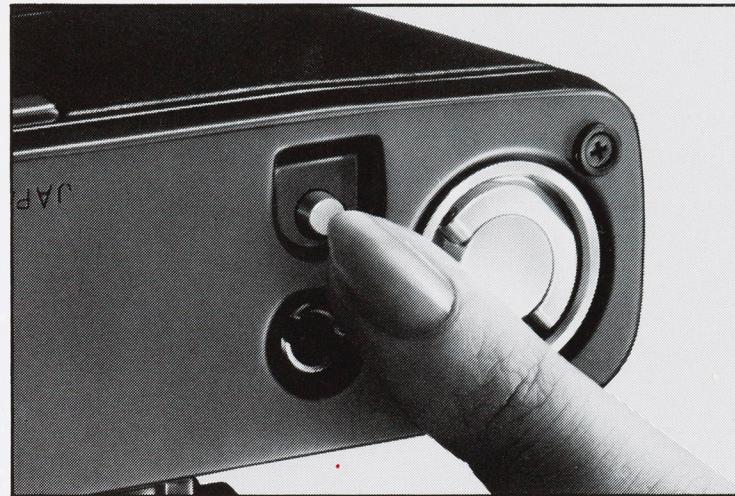
**1** まずフィルムを巻上げ、レリーズボタンを押して1回目の露光を行ないます。次にカメラ底部のフィルム巻戻しボタンを押し込みます。押し込んだあとはボタンから指を離します。

**2** 卷上げレバーを巻上げます。このときフィルムは送られずシャッターだけがセットされ、フィルムカウンターも停止したままになります。

**3** レリーズボタンを押して2回目の露光を行ないます。このようにして同一画面内に2回、あるいはそれ以上の多重露光撮影を行なうことができます。

巻戻しボタンは、巻上げレバーを巻上げると自動的に元に戻ります。

- 多重露光撮影では、重なる画面がわずかにズレることがあります。
- 多重露光撮影は、重ねる被写体の配置によって写真の良否が決定します。重ねる被写体は、黒い部分の多い被写体から順に撮影すると良い結果が得られます。全体に白っぽい画面、または大変明るい画面などは多重露光撮影には適していません。



# 被写界深度について

レンズの一般的な性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

- ① 絞りを絞り込むほど被写界深度が深く、開放にするほど浅くなります。
- ② 被写体の距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。
- ③ ピントを合わせた被写体の後方に深くなり、前方に浅くなります。

また異なるレンズでは、焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

被写界深度の具体的な範囲は、個々のレンズの被写界深度目盛で確認することができます。たとえば50mmF1.4標準レンズで2mの距離にピントを合わせ、絞りをF16にセットした場合は、被写界深度目盛16に対応する距離、すなわち約1.4mから約5mまでピントが合うことになります。

## 〈絞り込みボタン〉

ファインダーは、常に絞り開放の状態になっていますが、このボタンを押すとセットした絞り値まで絞り込まれ（ファインダー内は絞り値に応じて暗くなります）、そのときの被写界深度や背景のボケ具合を見ることができます。

●絞り込みボタンを押したまま露出の確認や撮影をしても、適正露出は得られません。





F1.4の場合



F16の場合

# レリーズソケット/ミラーアップレバー

## 〈レリーズソケット〉

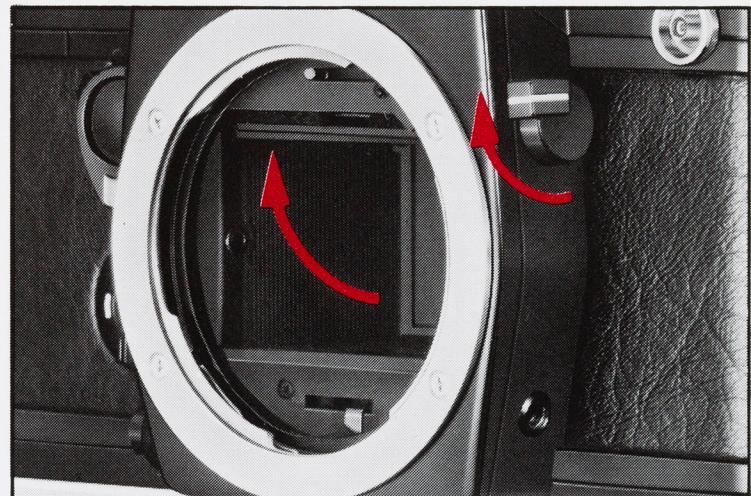
ケーブルスイッチS、赤外線コントローラーS、ラジオコントローラーなどの遠隔操作アクセサリーやオートベローズ、オートストロボRTF540を接続する接点で、これらアクセサリーからの電気信号を伝え、シャッターを作動させます。

●レリーズソケットに、市販されている一般的のケーブルレリーズを取付けると故障の原因となりますので使用しないでください。

## 〈ミラーアップレバー〉

ミラーを上昇させて固定するためのレバーで、顕微鏡撮影や複写のようにミラー作動により生ずるわずかな振動の影響も軽減したい場合に利用します。ミラーアップレバーを矢印方向に止まるまで回すとミラーが上がり固定されます。（ファインダーは見えなくなります）ミラーを戻すときは、ミラーアップレバーを元の位置に戻してください。

ミラーアップ状態でオート撮影や露出チェックを行なっても適正な露出は得られません。撮影する場合は、ミラーアップをする前に露出のチェックを行ない、そのときの露出に従ってカメラをマニュアルに切替えるか、AEロック機構を利用してください。



# 赤外線補正マーク/裏蓋交換

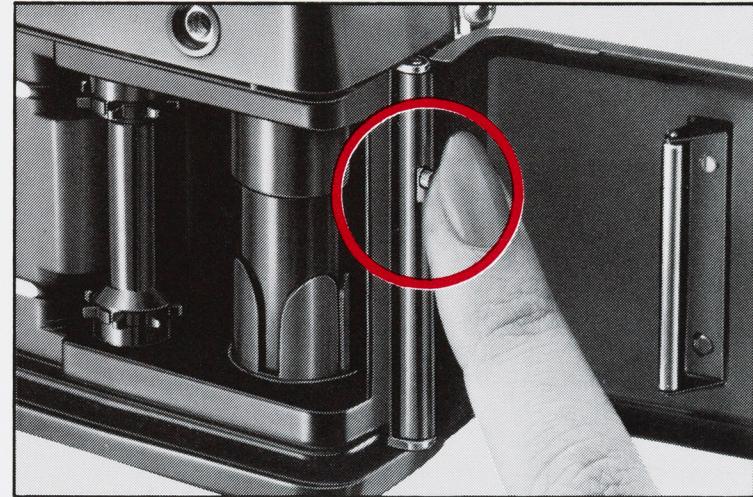
## 〈赤外線補正マーク〉

赤外線フィルム(赤フィルター併用)を使用して赤外撮影する場合、赤外線は波長が長いために、ファインダーでピントを合わせてもフィルム面のピントはズレているので、そのズレの量だけ補正をしなくてはなりません。ツアイスレンズには、そのための赤外線補正マーク(赤い指標)がレンズ鏡胴の被写界深度目盛の中に入ります(ツアイスミロターレンズは、補正の必要がありません。またバリオゾナーレンズにはこの補正マークがついていません)。まず通常のピント合わせをしたあと、そのときの距離目盛を補正マークの位置までずらして撮影します。



## 〈裏蓋交換〉

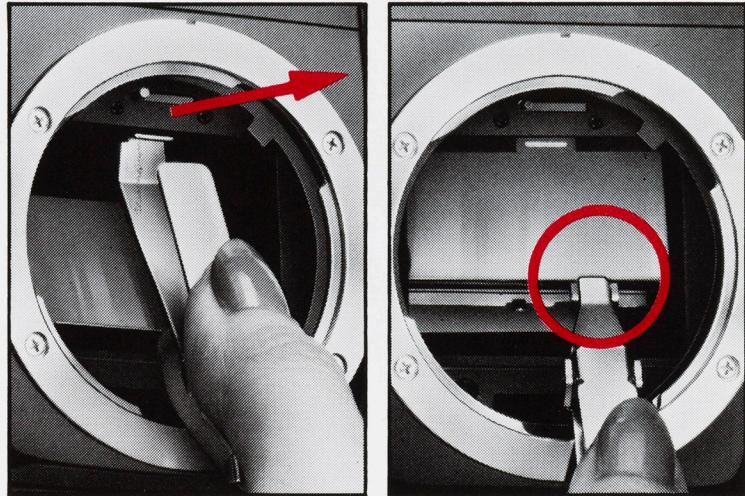
専用データバッククォーツD-4(写真に年・月・日や時・分などを写し込む装置を持つ裏蓋)を使用するときは、カメラの裏蓋を取りはずして交換します。裏蓋は、着脱ピンを押し下げるて取りはずします。裏蓋は、必要なとき以外はむやみに取りはずさないでください。



# フォーカシングスクリーンの交換

## 〈取りはずし〉

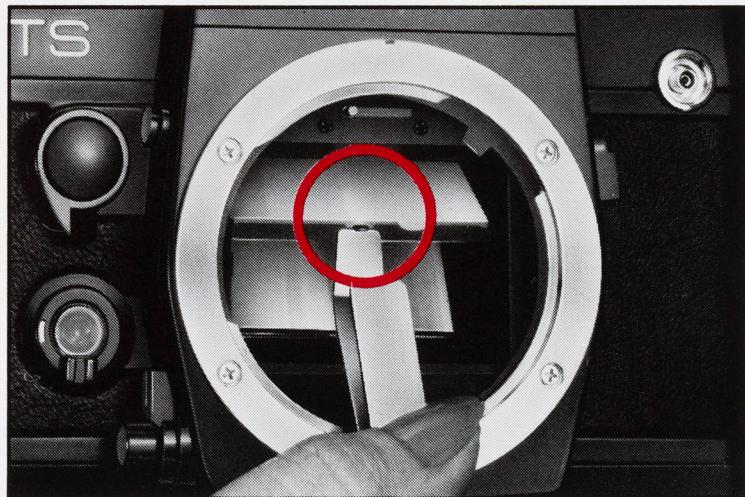
まずレンズを取りはずしてから、フォーカシングスクリーンに同梱されている専用ピンセットを、写真で示すようにスクリーン交換つめにかけ、手前に引きます。スクリーンが枠ごと下がりますから、スクリーンの突起部を専用ピンセットではさんで取出します。



## 〈取付け〉

取付けるスクリーンの突起部をピンセットではさみ、下がっている枠内に入れます。次にピンセットを写真のように枠の突起にあてて、カチッとロックがかかるところまで静かに押し上げてください。これで取付けは終了です。

- フォーカシングスクリーンの着脱は、必ず専用のピンセットを使用し、ミラー面、及びスクリーンにキズや指紋をつけないように注意してください。
- 取付けたが不完全ですと撮影中にスクリーンがはずれて破損したり、レンズの着脱ができなくなることがあります。スクリーンがはずれたときは、専門的な処置を必要としますので最寄りのサービスステーションにお持ちください。



## 〈フォーカシングスクリーンの種類〉

**FS-1(マイクロプリズム式)** \*…………一般撮影に適しています。中央のマイクロプリズム部とその周辺のマット面の両方でピント合わせができるスクリーンです。

**FS-2(スプリットイメージ式)** \*…………一般撮影に適したスクリーンで、中央の45°傾斜したスプリットイメージ部の分割された像を一致するようにしますが、特に水平線や適度に線のある被写体のときに速く正確にピント合わせができます。

**FS-3(水平スプリットイメージ式)** \*…………中央のスプリット部が水平になったもので、適当に線のある被写体のときに速く正確にピント合わせができます。45°傾斜のスプリット式同様、一般撮影に適しています。

**FS-4(スプリットマイクロプリズム式)** \*…………水平スプリットイメージの外周にマイクロプリズムを配した万能タイプのスクリーンで一般撮影に適しています。スプリット部、マイクロプリズム部と周囲のマット面でピント合わせができる3ウェイタイプです。

**FS-5(全面マット式)** ……………全面をマット状にしたスクリーンです。長焦点レンズなど比較的暗いレンズを使用するときや、接写などでマイクロプリズム部、あるいはスプリット部ではピントが合わせにくいときに適しています。

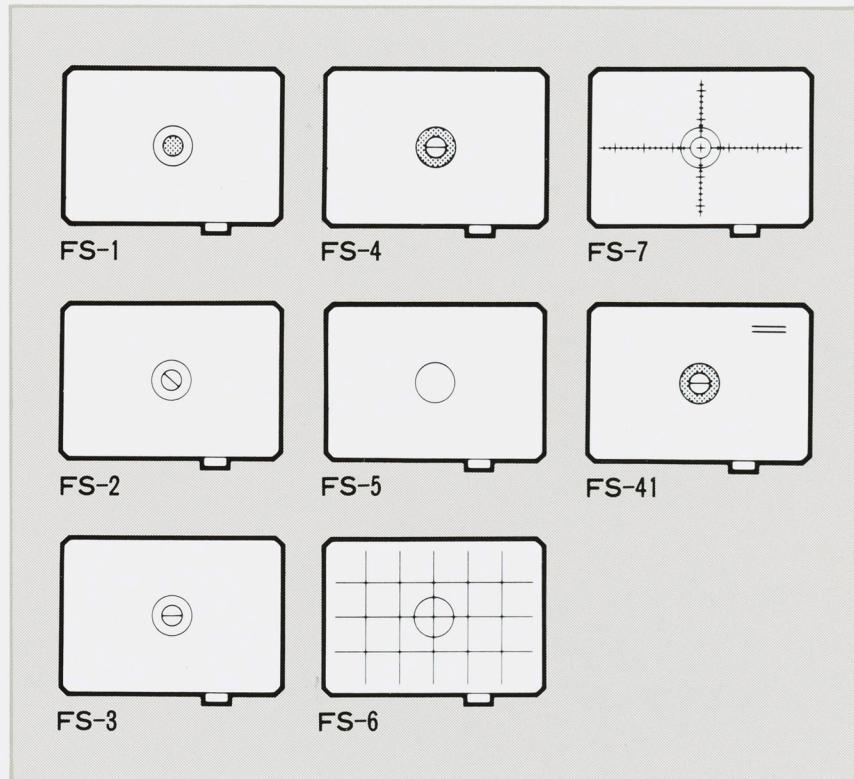
**FS-6(方眼マット式)** ……………全面マット式に6mm間隔の方眼を入れて撮影時の構図を決めやすくしたスクリーンです。特にオートベローズやPC-ディスタゴンを使用してのオリ撮影、あるいは複写に効果的です。

**FS-7(クロススケール式)** ……………主に顕微鏡撮影や高倍率接写のときに使用するスクリーンです。中央が明るい透過式になっており、ここでピント合わせを行ないます。もちろん周囲のマット面でもピント合わせはできます。縦・横方向に1mm間隔の目盛があるので撮影倍率やフィルムに写る被写体の大きさを知ることができます。

**FS-41(スプリットマイクロプリズム式…データバック用)** \*…………スプリットマイクロプリズム式に、データバッククォーツD-4使用時の日付け写し込み位置を示したスクリーン

で、ファインダーを見ながら日付けの入る背景を確認して構図を決めることができます。

\* 長焦点レンズなど開放F値がF4、あるいはF5.6といった比較的暗いレンズを使用したときや、高倍率での接写時では、マイクロプリズム部、またはスプリット部にカゲが生じ、ピントが合わせにくくなることがあります。このようなときは周囲のマット面でピントを合わせてください。



# カメラ使用上の注意

●RTSIIクオーツは、+50°C～-20°Cの範囲で使用できますが、急激な温度変化を与えないように注意してください。特に冬山や寒冷地などの撮影で、寒い屋外から急に暖い室内にカメラを持ち込んだりすると、カメラの内外に水滴が生じます。その逆に、暖い室内から寒い屋外に持ち出したりすると、寒い日の窓ガラスのように霜が生じたり、内部の水滴が凍ったりします。いずれの場合も、そのまま放置しておくと腐食の原因にもなります。このように急激な温度変化を与えることは禁物で、できるだけカメラの温度変化をゆるやかにする配慮が必要です。

また寒冷地では、カメラの電池が低温の影響を受けて上記の温度範囲でもカメラが正常に作動しない場合もありますので注意してください。(P15参照)

●カメラは、暑い場所(夏の海辺・直射日光下の停車した車内など)に長く放置すると、熱のためフィルムの感度、電池、カメラの機構に影響を及ぼしますので注意してください。もしカメラが熱くなつたときは、周囲の気温程度に下がるのを待ってから使用してください。

●海岸、山岳、雨中などの撮影後は、カメラを良く清掃してください。潮風は腐食の原因になり、砂ぼこりなどは内部の精密な機構に影響を及ぼします。

●レンズやファインダー接眼部などにゴミ・ホコリがある場合は、ブロアーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払い、指紋な

どがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。またミラー面のゴミやホコリは、レンズ刷毛で軽く払う程度にしてください。

●撮影(旅行・結婚式・業務用等)をする前には、必ず前もって機能チェックをするように心掛けてください。

●撮影されたフィルムをサービスサイズにプリントされる場合、その仕上がり画面は、原版より若干せばめられますのでご注意ください。

カールツァイス交換レンズには、コンタックスフィルターの使用をおすすめします。市販フィルターの中には、フィルター枠によって画面にケラレが生ずるものもありますのでご注意ください。

# 主な仕様

型式：電子制御式AE35mmフォーカルプレーンシャッター1眼レフカメラ	フォーカシングスクリーン：マイクロプリズム型を標準装備 他7種のスクリーンと交換可能(レンズマウント部より交換)
画面サイズ：24×36mm	ファインダー内表示：絞り表示、露出補正表示(LEDデジタル表示…赤色)、シャッター速度表示、露出オーバー/アンダー表示(LED文字アレー表示…赤色)、TLAストロボ充電/調光確認マーク(LED表示…緑色)
レンズマウント：コンタックス/ヤシカマウント	フィルム巻上げ：レバー式(巻上げ角120°、予備角20°) 小刻み巻上げ可能 ワインダー/モータードライブ取付使用による自動巻上げ可能
標準レンズ：プラナーT*50mmF1.4 プラナーT*50mmF1.7	フィルム巻戻し：巻戻しボタン(自動復元)、及び巻戻しクラッチ内蔵による回転式
シャッター型式：左右走行式チタン幕フォーカルプレーン電子シャッター(クオーツ制御)	フィルムカウンター：自動復元順算式 カウンター“1”まではシャッターダイヤル位置に関係なくカメラは1/60秒に自動セット(“B”を除く)
シャッター速度：オート時…16秒～1/2000秒 マニュアル時…X(1/60秒)、B、4秒～1/2000秒の16段階 機械シャッター…1/50秒、及びB	多重露光：巻戻しボタン利用により可能
シンクロ接点：X接点(1/60秒で同調) ダイレクトX接点、及びシンクロターミナル付	アクセサリーシュー：ダイレクトX接点、及びTLAフラッシュシステム運動接点付
セルフタイマー：作動時間10秒(クオーツ制御) LEDによる作動表示付(シャッターレリーズ2秒前に点滅サイクルが変わる) 途中解除可能	裏蓋：巻戻しノブ引上げによる開閉式 メモポケット付 着脱可能
レリーズ：電磁レリーズ(専用レリーズソケット付)、及び機械レリーズ	絞り込み機構：ボタン式(メカニカルシャッターボタン兼用)
一般撮影測光：TTL中央重点開放測光(受光素子—SPD) 絞り優先AE方式●測光範囲……ASA100でF1.4レンズ使用時、EV-1(f1.4・4秒)～EV19(f16・1/2000秒) ●フィルム連動範囲……ASA12～3200	ミラーアップ：専用レバーにより可能
ストロボ測光：TLAフラッシュシステム時、TTL中央重点ダイレクト測光による自動調光(受光素子—専用SPD) ●同調シャッター速度……1/60秒(充電完了と同時に自動切替え方式)	電源：6.2V銀電池JIS 4SR44(4G13タイプ)、または6Vアルカリ電池JIS 4LR44を1個使用 メインスイッチ付
露出の表示：ボタン式(ワンプッシュで16秒間表示)	電源チェック：ファインダー内LED表示の点灯、点滅で確認
露出補正装置：ダイヤル切替え式 +2EV～-2EV(1/2EVごとにクリック付、中間も可)	その他：モータードライブ/ワインダー接続機構付 データバック用LED付
AEロック：レバー式(像面光量記憶方式)	寸法・重量：142(幅)×89.5(高さ)×50(奥行き)mm・735g(電池別)
ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベル型 ●視野率……97%	※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
●倍率……0.87倍(50mm標準レンズ) ●接眼部遮閉装置内蔵	

## 保証書について

コンタックスRTS II クオーツには国内・海外を通じ、ご購入日より満一年間の「国際保証」がなされます。

保証書は、登録カード制度に基づいてお送りしております。お買上げいただきましたら必ず同梱の愛用者登録カードにご記入の上、10日以内にご返送ください。愛用者カードが当社に到着次第、国際保証書をお送りします。万一、保証書がお手元に届かない間にカメラの調子がおかしくなったときは、「ご愛用者控えカード」にご記入の上、カメラに添付していただければ保証修理をいたします。また保証書の再発行は致しませんので紛失しないよう保存してください。

## アフターサービスのご案内

弊社は、ご愛用者の皆様に安心してお使いいただけるよう、機能、品質はもとより、ご質問、ご相談、修理などのアフターサービスについても万全を期しております。

①萬一本製品が故障したときは、ご購入店か最寄りの弊社サービスステーションに現品ご持参の上、故障内容を詳しくお申し出ください。なお故障の状態によっては、そのときのフィルムなどを添付していただくと修理作業の参考となります。保証書の添付がないと有料修理となりますのでご注意ください。また製品を郵送する場合は、必ず書留小包にてお願いします。

②修理にかかる日数は、故障内容によって多少違いますが、弊社でお頂りしてから約7～10日位をご予定ください。

③本製品の補修用性能部品は、10年間を目安に保有しておりますので本期間中は原則として修理をお受けします。なお期間経過後でも修理可能の場合もありますので、ご購入店か弊社サービスステーションにお問い合わせください。

④保証期間経過後の修理は、有料修理となります。また運賃諸掛けはお客様にてご負担いただきますのでご了承ください。

⑤水没・冠水・ショック品・その他損傷の著しいもので、製品の性能が元通りに復元できないと思われるものは、修理不能となる場合もありますので、ご購入店か弊社サービスステーションにご相談ください。

⑥海外旅行中に故障した場合は、ヤシカ海外サービスステーション、または代理店にご相談ください。詳細については最寄りのサービスステーションにおたずねください。

※海外旅行には保証書をお持ちください。



**株式会社ヤシカ 営業所／サービスステーション**

東京●〒150 東京都渋谷区神宮前6-27-8	☎ 03(400)1411 サービス4422
大阪●〒550 大阪市西区南堀江4-17-18(原田ビル205)	☎ 06(532)2251
名古屋●〒460 名古屋市中区錦3-12-10	☎ 052(961)0656
福岡●〒812 福岡市博多区中呉服町2-7(博多村山ビル)	☎ 092(281)5749
札幌●〒001 札幌市北区北20条西4-19(北陽ビル1階)	☎ 011(721)1612
仙台●〒980 仙台市五橋2-11-1(ショーケー本館ビル)	☎ 0222(22)7528
島根●〒6930 広島市中区大手町3-5-3(野村ビル)	☎ 0822(43)7437
新潟●〒950 新潟市蒲原町3-28(明石ショッピングセンター内)	☎ 0252(44)3866
高松●〒760 高松市内町4-1(小松ビル)	☎ 0878(51)2495
静岡●〒420 静岡市駿河町5-6(寿ビル)	☎ 0542(53)7822
大宮●〒330 大宮市東町2-291(グリーンマンション)	☎ 0486(43)0566
横浜●〒231 横浜市中区不老町3-13-12(ペインティングビル1階)	☎ 045(641)3333
岡山●〒700 岡山市清輝橋4-2-8	☎ 0862(32)3627
金沢●〒921 金沢市入江2-431(中川ビル2階)	☎ 0762(91)4626

東京事務所●〒145 東京都大田区田園調布南20-3  
コンタックスサロン●〒150 東京都渋谷区神宮前6-27-8

☎ 03(750)2211代  
☎ 03(400)1424